

ラツキー☆アイランド

〜のこされ島奇譚〜

作 佐藤茂紀

時 … 1954年春 2011年春 2014年夏 など
場所 … 福島県双葉町 浪江町 など
登場人物

ベン 自称ベン 本名不明 絵描き

マリ 漂流民 長女

マモル 漂流民 長男（兄）

エミリ 漂流民 次女

トモミ 漂流民 レポーター

キムラ 漂流民 プロデューサー

その他生命体
防護服ダンサーズ

開場 明るい音楽が静かに流れている。

防護服を着込んだ出演者達が会場案内をしている

出演者達は「直ちに太らない飴」と説明しながらを配っている
到着されたお客様には「防護服着用体験」が用意されている。

開演5分前、前説者の案内開始。

前説者の言葉と音楽を遮って、音響が入り、開演する。

0場 観念の世界

夢からの覚醒

劇場をふるわす低音が聞こえてくる 地鳴り

前説者 皆ちゃんと誘導して

なお、地鳴りが大きくなる

劇場内で会場案内をしている防護服の者達が消えて行く

客電落ち！て行く

前説者

あの日、2時46分、今までに経験したことが無いような耳鳴りがした。キーンってなって、ゴゴゴゴオーってなって……。？・・・なんだこの記憶は？

SE ブレーカーが落ちるような音。

照明落ちる。停電である。

ME 「I love you, Fukushima」 小さなラジオのスピーカーから聞こえてくるようなノイズ混じりの音楽が切れ切れに聞こえる。停電の中、前説者がポケットから、ジッポライターを取り出し点火する。

前説者

忘れた記憶……。あの日みたいだ……。

ジッポライターを消すと同時に ME CO

地鳴り大きくなる。

舞台上溶明

SE 風が吹いている。

夕闇迫る雑踏の中、立尽くす防護服の者達のシルエットが浮かび上がる。

防護服の者たちは、ベンとその他生命体を除く登場人物全員。

ME 再び音楽が聞こえてくる。

音楽が地鳴りを鎮めていく。

SE 緊張の一音（ハイトーン、耳鳴りのような）が響く

と同時に照明 2 人の防護服のものに光が射す

防護服の者 1（マリ） 今なにしてるの？

防護服の者 2（キムラ） なにもしてない。（マリ、ゆっくりと去っていく）

SE 緊張の 1 音と同時に照明のフォーカス広がる

マリ 今なにしているの？
ベン 絵を描いているの。

溶闇と同時にベンシヤーンのラッキードラゴンが投影される。
(福島県立美術館所蔵の第五福竜丸無線長久保山愛吉を描いたもの)

ベンとなるモノはキャンバスに向かう
マリは眺め続ける

マリ この絵は？
ベン ラッキードラゴン。僕の描いた絵だ。(ベンはける)
マリ ラッキードラゴン。

SE ラジオノイズ

ガイガーカウンターの電子音がかぶる。
緊張した1音が鳴らされる。

映像「2011年3月」と警戒区域の映像。
映像カットアウト

SE ノイズとともに暗転・

1場 2011年3月 双葉町

マモル あったぞ！ 翅箱！
マリ 行くよ！

叫び走る3つの人影。

ME わが祖国 第9曲 ブラニーク。
強烈なバックライト。

映像「2011年3月」
警察車両のサイレン。
疾走する3人。走りながらの会話。

マリ 2011年3月！ われら3兄弟は警戒区域の中に突撃！
目的は酵母菌奪還！ および我らが愛犬の救出！
危険だやめろと言われても！
こんなことには負けたくねえんだ！
エミリ 3百年続いた酒蔵よ！
マリ うちの酵母さえあれば、うちの酒は、復活する！
銀！ 銀がいれば家族がそろろうの！ 銀！ どこ！

マモル

我ら酵母菌奪還成功せり！

ブラニークCO 映像CO

マリは真っ直ぐに向かってくる。

SE 鉄のフェンスに思い切り体当たりをするマリ。

舞台上にあるフェンスは具象ではない。

蛇腹格子のバリケードをイメージしていただきたい。

照明変化する。

3人の疾走止む。

マモル

なにしてるの！？

エミリ

お姉ちゃん、こっち！

マモル

マリ、なにしてるの！

マリ

バリケードの向こうに！

SE 横移動しながらバリケードをバンバン叩きまくるマリ。

エミリ

こんなところでもたもたしてたら捕まるよ。

マモル

マリ行くぞ！警察やっとな振り切ったんだぞ！

マリ

犬も連れて帰る！

マモル

え！？犬！？

マリ

犬！ (SE) ひとときわ大きい叩く音

マリ

犬って言ったら銀でしょ！

マモル

そりゃあそうだけど、今はこの麴箱の奪還が先だ。

マリ

マリ、銀は日を改めてだな。

マモル

ダメ！

マリ

エミリ、お前まで

マモル

さっきサイレンに混じって犬の遠吠えが聞こえた。

マモル

でもそれが銀だって言い切れないだろ。

マリ

銀じゃないって言い切れないよ。

エミリ

開く！開く！開く！！

マリ

一気に開けるよ！

エミリ

了解！

マリ

でやあああああ！

ガラガラと蛇腹格子バリケードが開けられていく。

マリ、エミリの行く手を遮るマモル。

マモル

ここで捕まっちゃダメなんだよ。いくつもの検問をやり過ぎて、やっと

の思いで双葉に入って、自分の家に忍び込んで、ぐちゃぐちゃになった蔵からどうにか酵母のくつついてる麴箱をどうにか持ち出したんじゃないかだから……。

マリ わかってる、わかってるよ！でも…銀は……。

マモル いったん引き上げよう。銀は明日また

エミリ 明日って、明日ってさ、どっち？

マモル どっちって

エミリ だからどっち？

マリ エミリ。

やっぱさあ、あのバカ犬もいないと朝が来た気がしないんだよね。

赤色灯とサイレン（遠くに）

エミリ 警察！隠れて！

緊張の一音（長く響く）

エミリ 行った……。

マリ なんで、なんで……。

エミリ おねえちゃん、どうしたの。

マリ ねえ、なんで、こちらが警察からこそそそしなきゃならないの……。

マモル いやあ、そりゃあさー

立ち上がり走り出すマリ、続くエミリ。

マリ 原発から10km圏内のもは自分のものであっても持ち出しちゃいけないなんて誰が決めたの？行くよ！

無理やりバスに乗せられて避難させられて『まだ家族が残っているんです』って言っても、『犬はダメだ』『動物はダメだ』って。

エミリ、マリに並ぶ

エミリ 避難所に着いたら隔離されてさ、ヨウ素剤飲まされてさ、副作用で顔パンパンに腫れてさ、

検問の人が『もう家には帰れない』って、どういうこと？

マモル二人に追いつき

マモル だから俺達は警察の目をかいくぐって家へ行った。

家に着くまでに何重にも何重にもゲートが張り巡らされていて、その度に俺たちはゲートをなんとか通り抜けた。

マモル転ぶ。

マリ
お兄ちゃん！
マモル この酵母菌だけは絶対に守る。俺達がここに生きていた証なんだ！

緊張の1音
イヌの遠吠え

マリ 銀だ！銀が呼んでる！

遠吠えの方に走り出すマリ、続くエミリ。

マモル おい！そっちじゃない！

エミリ 銀も連れて帰らなきゃ、明日がどっちかわからなくなる！

マモル おい！やめろよ！

マリ だめ！銀も連れて帰るんだから！放して！

マモル どこを捜せばいいんだよ？無理だよ。夜が明ける前に捕まっちゃうって！

エミリ マモルは置いてきぼりにされた銀が心配じゃないの？

マモル とにかくここに麴箱はある。これを取り戻しただけでも上出来だ。

エミリ 情けない、それでもうちの長男なの？銀だって家族じゃない！

見てよ、線量計、この数字、60マイクロシーベルトって。

この数字が何を意味してるのかわからないけど、きっと危ないんでしょ、

この数字。数字でしか感じられないの。

銀はこういうとここに置き去りにされたの。ううん、置き去りにしたの。

マモル だからだよ！だから、だから！おまえ達もここに長居させたくねえんだよ。

だから、俺一人で行くって言ったのによ、お前らついてくんのやめろって

言ったのにお前らが。

エミリ またバリケード・・・。

マモル、バリケードに掴まり息を整えようとし

ガチャ・・・ガチャ・・・とマモルの呼吸に合わせてバリケードの

音が聞こえる

マモル

マリ これ以上海岸には近づけ。ないよ。やめて一旦引き上げよう。
マモル、やめろって言われても、やめられないよ。ここってどこ？

バリケードを蹴るマリ。

驚くマモル

マリ あ、ごめん。

マモル どこって・・・、うちの近所だろ。
マリ そうよね。うち！（水中のようなイメージ）
エミリ うち

映像

酒造店の映像でるやいなや映像にノイズ入る。

映像のノイズともにSEノイズ。

照明はセピアのイメージもしくは深い海の底

マモル 私たちのうちを出て、国道6号線を渡って、厚生病院の前を東にまっすぐ来たところ。もうちよつとで海に出る。小さい頃から海に遊びに行く時通ったところ。よく知ってるどころ。
ああ、まあそうだけどー

緊張の1音

ここまでノイズは継続、耳を澄ませばガイガー音が聞こえる。
照明戻る。

エミリ しいっ！ 隠れて！

赤い回転灯の光が過る。

SE 風の音（静けさと孤独）ガイガー音 SO

エミリ 行った・・・。
マリ ここ、どこ？
マモル だから、マリの言うように俺たちが海に通った道
マリ 違う、

ME

マリ 知らない、こんなところ。知らない、こんなゲート。
知らない、こんなところ・・・。
エミリ マリおねえちゃん・・・。
マリ 知らないよ、かくれてこそそ家に帰らなくちゃいけないくて、よく遊んだところにもいけないくて、大事な愛犬だって捜しちゃいけない。こんな世界知らないよ。認めたくないよ。あきらめたくないよ。
マリ、でもここは警戒区域になっちゃったんだよ。だから
知らないよそんなの。警戒区域なんてこの名前じゃなかったよ。
ここは双葉町だよ。福島県双葉郡双葉町大字新山字北広町8番地っていうのが家の住所。どこに警戒区域なんて入ってる？福島県双葉町大字警戒区

城8番地……。警戒区域8番地……。

マリおねえちゃん、やめなよ。

エミリ、明日はあつちだ。

え？

銀、捜すんだろ。

マモル……。

麴箱取り戻しただけでビクビクしてられねえな。ぎゅん！今いくぞー！

赤い回転灯の光が迫る遠くにサイレン。

エミリ
バカ兄貴！声でかい！！

エミリ、マモルの防護服の腰辺りを掴み伏せさせる
破れるような音が響く

エミリ
ごめん、破けた！

マリ
ええ？破れたとこから放射性物質が入っちゃうよ。

マモル
そんな！？

マリ
兄ちゃん、立ち上がらないで。

マモル
ああ、うん、

エミリ
放射性物質ってそういう感じなの？

マモル
いや、そういうんじゃない

マリ
ほんと？ほんとに？するって入っていかないの？

マモル
入るっていうより

エミリ
伏せて！

赤い回転灯の明かりが横切る。

SE 静寂

マリ
行ったよ。

エミリ
うわあ！あれはどこか警だろ？

マモル
さあな、日本中のパトカー見本市みたいになってるからなあ。

マリ
マモル兄ちゃん、お尻大丈夫？なんか入ってきてない？

マモル
なんかってなに？

エミリ
するーって？

マモル
ああ、あのね、放射線ってそういうのじゃなくって、これ着ても

容赦なく体を通り抜けてるの。

ええ？無駄なの？じゃあ、このマスクも無駄？

エミリ
無駄なの！？じゃマスク邪魔。

マモル ばか！だめだよ。

マリ いやなの！この空気もこの星空も変わっちゃったって思いたくないの。

エミリ じゃ、うちも！

マリ、マモル エミリはダメー！！（同時に）

エミリ え？

マモル だめだって言ってるだろ！マリも！

マリ あ、うん。

マモル ここではさ、やっぱりマスクとかしててくれない。

ここはここだし、何も変わってないって俺だって思いたいけど、な。

エミリ ごめん。

マモル 俺だって、納得できてるわけじゃないんだ。

悔しいけど、これが今のここなんだ。

マリ 今のここ・・・。

エミリ ああ、それにしてもさ、マモルはなんでシャワーキャップかぶってるわけ？

マモル 俺なりにたどり着いた結論ってやつさ。

エミリ はあ？

マモル これこそが放射性物質に対抗しうる最高の素材なのだよ。なにしろ水も

空気も全く通さない。それがホテルとかでただで、ファッション性も高い。

ちよっと蒸れるのが玉にきずでさ。あ、お前らの分もある。

エミリのフードの上からかぶせる

エミリ ファッション性上がった？

マモル おお、おしゃれだ。ほら、マリも。

マリ ああ、いらない。

マモル ええ、いいのに、これ。

エミリ あったかいよ。これ

マモル さすがに夜明けが近いと冷え込むな。走っていると暑いけど。

マリ 銀ってさ、寒がりじゃない。秋田犬のくせに。

エミリ いっつもお父さんのお布団で寝てたしね。

マリ ぎゅーん！

マモル だめだって、大きな声。誰もいないから響くんだよ。捕まっちゃうよ。

エミリ よし、このバリケードも開けようよ！

エミリ、ゲートを蹴る。

SE 思い鉄を蹴る音とその残響。

マリ

しっ！

静寂

マリ あ！

エミリ え！？

マリ 変わった。

エミリ え？なにが？

マリ 星空。

マモル 放射線は目に見えないぞ。

マリ ううん、そうじゃなくって、人の営みが消えたお陰で星が近いの。

エミリ ほんとだ……。

マリ 銀も見てるかな。

エミリ あいつ早寝だもん、寝てるよ。

マリ なんか複雑。

マモル マリ、直に座っちゃだめだよ。

マリ ちゃんと払うよ。

エミリ あ、この辺そんなに線量高くないみたい。40マイクロシーベルト。

マモル それ、高いっていうんだよ。

エミリ だって、家の辺り60あったよ。

マモル だからこういうの着てなきゃいけないんだろ。

マリ 銀は着てないね……。

マモル だけどな……。

エミリ だいじょぶだいじょぶ！銀だもん。

マリ 銀……。

マモル あ、マリ、マリ、あれ！お前の好きなオリオン座。

マリ 別にあたしー

マモル でもってベルトの3星の剣のところはM78星雲。

ああ、ウルトラマンのふるさと光の国ね。

マリ ウルトラマン？

マモル そうさ、俺たちの危機には来るぞ我らのウルトラマン！

防護服ダンサーズ「ウルトラマンの歌」を歌いながら登場。

北ぞわれらのウルトラマンというフレーズを受けて。

防護服ダンサーズ ないない。やってきやしない。

マリ 来るもん！ウルトラマンはきつと来るんだから！

防護服の男 来るわけないよ。

マリ達 え？

防護服の男 ウルトラマンは過ちを犯し続ける人類へのアンチテーゼ。

彼が我々に託した想いは否定されたんだもの。

防護服の男の合図に呼応し解散。

エミリ あんただれ？

防護服の男 ウルトラマンに夢と希望を見たものさ。

マリ どういうこと？

防護服の男

夢と希望を追い続けるって大変なんだよね。多くの人は元々持ってやしないか途中で捨てる。だから僕は今こんな服を着なきゃいけないってんだ。待つて。

マリ

防護服の男ゆっくりと消えていく。

エミリ

来るもん！ウルトラマン！このまんまじゃ済まされないんだから！

もうすでに防護服の男はいない。

マモル

なんだったんだ・・・。

エミリ ウルトラマンが託した夢？

マモル ウルトラマンに見た希望・・・。

マリ だから僕は今こんな服を着なきゃいけないって・・・。

エミリ あ、マモルにいちちゃん、破れたとこ拵がつてる。

マリ あ、ほんとだ。するって入るどころじゃないかも。

エミリ もう！何で防護服って紙製なの？！

マモル これはね、紙じゃなくってさ、ポリエチレンの極細繊維が複雑に結合し

て何層にも重なっている布なんだよ。

放射線そのものは通しちゃうけど、放射性物質は通さないから――

エミリ ああ、意味わかんない。

マモル あのね、放射線が人体を通り抜ける時DNAを傷つけちゃうのね。で、

その放射線を出す物質が、つまりセシウムとかプルトニウムとかが

くっついちゃった塵とか埃とかが放射能を持つ物質ってことで、すく

なくとこれはそういうものが表面にくっつくのを防ぐのが目的で――

やつぱり気休めな感じ？

聞けよ。

マリ 結局放射線は通すってことでしょ。

マモル そりやそうだけど、普通の服だったら雪だるまみたいにくっつけまくっちゃ

やうの。そうならないようにさ――

マリ じゃあ、銀は？

マモル 銀の毛皮にはたっぷりくっついてるかもな。

マリ 銀・・・。

エミリ マリねえちゃん……。マモル、あんたが悪いんだからね！
マモル え？俺？

エミリ そう、マモルがもつといいもの用意しないのが悪い。

マモル 銀の分もね。

マモル 銀の分って……。

エミリ あゝあ、ゴジラの放射能でもオツケー！

エミリ みたいなのがあったらいいのにね。

マモル ゴジラって。おまえ、そりや無理だよ。

エミリ ゴジラってさ、アメリカの水爆実験で生まれたんだっけ。

マモル ああ、まあ。そういう設定だね。

エミリ で？

マモル 1954年、太平洋の真ん中でブラボーと名付けられた水爆が炸裂した。

それは真つ赤な火の玉となり、おびただしい放射能を伴った牡丹雪のよう

なものを降らせた。それは海中で何万年も眠っていた伝説の怪獣を目覚め

させ、その放射能は怪獣を放射能を吐く化け物にしてしまった。

エミリ へえ、そういう話だったの、詳しいね。

マモル 俺、こういっちゃなんだけど特撮オタクだからね。

エミリ 自慢するところそこ？

マモル ああ、座っちゃった……。

マリ で、そのゴジラはどうなったの？

エミリ ええ、お姉ちゃんゴジラとか興味あるんだ。

マモル そりゃあ、福島県人だもん。興味あるよ。

なにしろゴジラの生みの親である円谷英二さんは福島県出身だからね。

マリ へえ、そうなの？

マモル 知らなかったの。

マリ うん、何かの縁なのかな。

マモル この辺が放射能だらけだから？

マリ で、ゴジラはどうなったの？

マモル あ、ゴジラはね、目覚めた太平洋の真ん中から東京を目指すんだ。

エミリ 東京に？

マモル 東京湾からあのテーマに乗って出現し、東京を放射能まみれにして破壊し

まくるんだ。

エミリ なんて？

マモル 科学やら経済の進歩に調子に乗った人類へ脅威を与えるためさ。

エミリ 人類への脅威か……。フクイチ……。あそこだけ明るいね。

マリ これからたつぷり味わえるかもね。

マモル やだねえ。ギャアオー！ギョウエツ！（ゴジラの吠え声を真似して）

マリ でも私たちにはこれがあるじゃない。

エミリ 放射能まみれになってなきやいいな、家の酵母。

マリ さあ、なんとか銀を見つけて戻らなきゃね。

エミリ せっかく奪還してきた酵母だもの。

マモル だよね、また酒造りができるよね。

エミリ 300年続いた酒蔵をあんな事故でなくしちゃだめだよな。

マモル へえ、長男みたいなこと言ってる。
だめ？

赤色灯の明かりが遠くに見える。

エミリ 早く取り戻した酵母を父ちゃんに見せてやりたいね。

マリ そして銀も連れて帰る。

SE イヌの群れの遠吠え。

マリ え！銀？

エミリ 野犬の群れ？

マモル 取り残された連中だと思う。

マリ 誰かが誰かを呼んでいる声。

銀が呼んでる！

SE ひときわ大きい遠吠え

エミリ 捜してる声。

SE 余震

SE 鉄の扉がガチガチとぶつかる音

マモル 余震だ！大きいぞ！車まで戻るぞ！

マリ だめ！まだ銀が！

マモル この辺まで津波が来てるんだ！早く！

マリ あ！銀！

エミリ え？

マリ 銀がいる！銀！銀！

ゲートを開けようとする3人

マリ こっちおいで！銀！

エミリ マモル！思いつきり！

マモル でも、逃げないで！

マリ

銀！どこに行くの！銀！戻って！こっちに来て！銀！！！！

SE 犬の遠吠えとひとときわ大きくなる余震

SE 鉄の扉がガチガチとぶつかる音

SE 扉が閉まる音。遮断を表現したい。

照明 閃光 CO

暗転

SE 振動は残しっつ

SE 緊張した不協和音

投影されるラッキードラゴン

可能な限り大きく投影すること。

まるでラッキードラゴンの絵の中に入るイメージで。

ベン（声）

芸術が世界を救うことはできないのだろうか。

マリ（声）

さあ、どうでしょうか。

ベン（声）

僕の絵はまだフクシマにあるのだろうか。

マリ（声）

私、この絵を福島の美術館で見たいと思います。

ラッキードラゴンの映像が小さくなって行く。

絵を描くベンにフォーカス。

ダチョウとその飼い主 防護服を着た男の絵だ。

緊張した不協和音が鳴らされる。

地鳴り

2場 2014年3月1日（映像で）

SE ノイズ 映像 FO 暗転

車の疾走

キムラとトモミ 小さなフォーカス

車内のきしみ ガタガタ

トモミ

うわっ！うわっ！こんなガタガタ道通るのですか！！！！？？？？

キムラ

もう少しだ！我慢しろ！ここ通るしか道はねえんだ！ちよつとのガタガタ

トモミ

ガタガタ言うな！

キムラ

ガタガタは申しておりませんが、ガタガタと振動が！

キムラ

ちよ・ちよ・ちよつとどころじゃ！

行くぞおー！

トンネルの中の共鳴

トンネルを抜けるイメージ
フォーカスが広がる。

車の車内

疾走の音ではなくオフロードをゆっくり走る車（イメージ）
後ろを見ているトモミ。

キムラは前を向いて運転している啞え煙草だ。

舞台上に自動車のそのもののセットはない。

異様にふり乱れた髪を直しながら。

キムラ

よし！抜けた！見たか！ゲートを避けつつ警戒区域到達！

トモミ

2011年以来3年間、警戒区域に取材に入り続けて3年間の成果だけ。

キムラ

何がでしょうか？

トモミ

この土地勘ていうか、検問のゲートをかいくぐる裏道をな

キムラ

さっきの道だったのでしょうか。

トモミ

まあ、道だ。俺の道だ。

トモミ

こちらが警戒区域ということですね。

キムラ

では、警戒区域に入りました。

トモミ

ああ、警戒区域だ。（携帯灰皿でタバコを消しながら）

トモミ

とにかくぼさつとしないでムービー回せ。

キムラ

撮影大丈夫なのでしょうか？

トモミ

パトロール来たら隠せ。

キムラ

違法ということになりますか。

トモミ

ここに俺たちがいること自体ダメだけだな。

キムラ

ええ！入城の許可は

トモミ

ない。

キムラ

帰ります。

トモミ

取材目的じゃなかなか許可なんておりないよ。

キムラ

なに軽くおっしゃっているのですか。お捕まりになられたら大変な一

トモミ

いいから回せ！カメラ回せ！

キムラ

・・・ええ、現在2014年8月9日午後11時02分。

トモミ

我々大都会テレビ特別取材チームは帰還困難区域に突入。

トモミ

かつては警戒区域と呼ばれていたところだ。我々は――

トモミ

あ！ストップ！ストップ！ストップ！

急ブレーキ

キムラ

なんだよ。

トモミ

ほら、あちらにパトカー。

キムラ お前、目がいいな。
トモミ アフリカの人並みだと言われます。神奈川、でしたね。
キムラ ン？
トモミ 神奈川県警！先程のパトカーのことでございます。
キムラ あ、ああ。
トモミ その前見たのは北海道警、その前の前は熊本県警、その前の前は愛知県警、その前の前の前は――
キムラ ・・・・
トモミ どこでしたっけ？
キムラ 知らねえよ。
トモミ みなさま放射能にもめげず頑張ってますね。
キムラ どうやったらめげられるんだ。放射能によ。
トモミ え？
キムラ さあて、この道を真っ直ぐ行けば、もう少しで海だ。
トモミ ええ！海に行くのですか？
キムラ なんだ、怖いのか。
トモミ いいえ、そんなことないです。
キムラ 俺は、怖い。
トモミ ええ？キムラさんが？
キムラ パトカーは行ったな！
トモミ え、ええ。
キムラ 撮影再開。移動するぞ。
トモミ あ、はい。
キムラ ・・・・ええ、現在2014年8月9日午前11時02分。
トモミ かつて長崎に原子力爆弾が投下された時間だ。
キムラ さつきからもう5分過ぎましたので11時07分です！
トモミ いいよ、そういうの。
キムラ 報道は正確に。
トモミ あのね、この11時02分っていう時間が大事なの。
キムラ やらせですね。
トモミ 俺はな、この福島の問題は、ここの話だけじゃないと思ってるんだ。
トモミ だからな――
キムラ キムラさん、トモミは尊敬してるんです。
トモミ キムラさんは水素爆発があつてすぐ社内規定を破ってまで現地に入いられたのですものね。
キムラ だからなんだ。
トモミ あたし、キムラさんが関わったこの3年間のVTRほとんどチェック済みです。
キムラ おまえ・・・。

トモミ　でもほんとなんですか？あの伝説。

キムラ　伝説？

トモミ　あの時40歳以上で、もう子供は作らない

って一筆書いた人しか福島入りできなかったって。

キムラ　ああ、まあな。

トモミ　しかあし、あの時まだ30代だったキムラさんはデスクの反対を押し切っ

て取材に飛んだ！報道魂感じちゃいます。

キムラ　そんなんじやねえよ。

トモミ　その時に放ったキムラさんの一言は伝説となった！

キムラ　伝説ってなんだよ？

トモミ　40歳以下であることを理由に取材許可を出さない報道部長にキムラさん

は叫んだ！

「福島の放射能がDNAぶっ壊すって！？上等じゃねえか！壊せるもん

なら壊してみやがれ！俺はな！聞いて驚け！俺は種無しだつ

て！！」

キムラ　や、やめろ、あるよ種。

トモミ　ああ、そこはどうでもいいです。かくして、キムラさんの福島行きの許可

があり、キムラさんの取材活動は今に至るのでございます。

キムラ　あのなあ、

トモミ　それにしても種無しなのは残念ですが、素敵です。

キムラ　あるっていったる！なくなったかもしれないねえけどな。

トモミ　放射能の影響ですか。

キムラ　ああ、あるよ、種。あるある。

トモミ　・・・。あ！べこつこ！

キムラ　え？

トモミ　あ、あんなところに牛の親子が。

キムラ　ああ、取り残されて、それでも生き抜こうとしている。

トモミ　ところでさつきなんて言った？

いろいろな動物ものこされてるのだという驚きが擬音となって。

トモミ　べえあるこ！

キムラ　・・・、まあいいや。報道されてるのは犬猫や牛だけだな。

トモミ　ダチヨウもいた。

キムラ　ダチヨウってあのダチヨウ？

トモミ　ダチヨウはダチヨウだちよう。

トモミ　・・・。

キムラ　ん？あ、おっと、マンホール、飛び出してるのがやつかいだ、と。

トモミ　あの・・・今なんと？

キムラ　マンホールね、地震で隆起したままなんだよね。

トモミ　いえ、その前。

キムラ ああ、ダチョウはダチョウだちよう！か、おもしろいだろ。
トモミ ・・・あの、笑うところでしょうか。
キムラ 笑っちゃいけないことの一つだ。

かつてこの辺りにはダチョウを専門に飼育してる牧場があつてな。

トモミ あ、それは資料の中になりました・・・ダチョウですか。

キムラ おっと、マンホールアゲインつと。

トモミ あのお、

キムラ 犠牲になったのはよ、おっと、マンホール。

人間だけじゃねえんだよつと、この辺ひどかったんだな。

トモミ 3年前の3月12日、双葉厚生病院に取材に入られたと。

キムラ あ、ああ。

トモミ 最初の水素爆発の日。2キロ離れたフクイチから爆発音が聞こえて、あ！
前、前向いて運転してください。牡丹雪のような白い降下物が降り注いだ。

そしてそれは避難しようとしていた入院患者さんたちにも、キムラさんにも
も区別なく降り掛かったと。

キムラ お前少し黙ってる。

トモミ ・・・

トモミ あ、ダチョウ！

キムラ え？

トモミ うそです。

キムラ いるわけねえだろ。もうダチョウはいねえよ。

トモミ 少し黙ってるって言ったばかりだ。

キムラ はい！少しは我慢いたしました。

トモミ もう少し我慢しろ。我慢してこの景色を目に焼き付けておけ。この人の温
キムラ 度が消えた街の景色はお前にはどう見えるんだ。これはな映画のセットじ
やないんだ。ここにはかつて人の営みがあつたんだ。わかれ、感じる。

明日は双葉町の人たちへのインタビューをお前がするんだ。共感を、てい
つてもちゃんと共感して取材するなんてできないけれど、少しでも
感じて、少しでも同じ視線に立って取材するんだ。それが無理してここに
来た理由だ。わかったらしつかり見ろ。

トモミ 見たくありません。

キムラ はあ？トモミ・・・、こんなこといつてるけど、俺だって何もわかつちや
いねえんだ・・・。わかりたい。わからなくちゃって思っているんだけど
な。

トモミ ・・・いるわけねえんだ。

キムラ なにが。

トモミ ダチョウ・・・死んじゃたんですか。

キムラ 死んだのもいるだろうな。

トモミ もう4年目でございますもの。

キムラ もう▲年目なのか、まだ▲年目なのか。変わったのか変わってないのか……
トモミ わかりました。

キムラ え、なにが？

トモミ みます。もう一度向き合う努力を致します。

キムラ もう一度？

トモミ ダチョウ、野生化したらよろしくてよ。

キムラ 野生のダチョウだちよう！つて。

トモミ おい、たまに線量計確認しとけ。

キムラ この日本に野生のダチョウか、まいったな……。

トモミ え？ 何か言いました？

キムラ 線量は？

トモミ えつと、10mSvです。

キムラ まだ下がってねえじゃねえかよ。

トモミ ええ？ なんですか？

キムラ お前連れてきて失敗だったよ。

トモミ 一生懸命やらせていただきましたから、そんな

キムラ いや、そうじゃなくってな

トモミ またまたあ、ていうかやっぱりそうですよねえ。私なんか。

キムラ 違うつて、お前が女の子だって忘れてたつてことだ。

トモミ え？

キムラ ああ、違う、違う。誤解すんな。

トモミ ああ、びつくらこいだあ。

キムラ え？おまえ、どこ出身だ。

トモミ あ、生まれも育ちも東京です。

キムラ 東京？

トモミ えつと、東京のチキジョージでございます。

キムラ チキジョージ？

トモミ ああ、8mSvに下がりました。

キムラ 8、か……。比較的低いって思ったほうがいいのかな。

トモミ ああ、海だ！あんなに離れているのに、はっきり海が見える。

キムラ え、でも……。

トモミ 見えるようになったんだよ。

キムラ みんな流されちまったんだよ。ほら、漁船だ。

トモミ もうだいたい片付いてはいるけどな。

SE 車が停車する

キムラはノートを取り出し何やらメモを取る。

トモミ

降りていいですか？

キムラ だめだ。

トモミ 大丈夫です。これから取材する造り酒屋のマリさんは何度も入ってるんですよね。

キムラ 彼女はお前とは違う。

トモミ 何も違いません！

ドアを開けるトモミ

キムラ 違うんだ！風景が、背中に背負ってる風景が違うんだ！
トモミ それはだれだって違います！

続いて降りるキムラ。

持っていたノートを防護服のファスナーを開け

ねじ込む。

キムラ ほら、マスクしろ！

トモミ キムラさん。

キムラ TPOをわきまえろ。ここでの正装だ。

トモミ はい。正装・・・ですか・・・。

マリちゃんが、いやマリさんが、これが警戒区域の最新流行
ファッションで、正装だって、言うのさ。

つまり、ここで一番ぴったりの服装ってことだ。

SE 海鳴り

トモミ あ！（走り出す）

キムラ おい！トモミ！どこいくんだ！？

トモミ こっちおいで、ほら、こっち。

キムラ なんなんだよ。

トモミ 猫！猫の親子！

キムラ 猫だあ？

トモミ ほら、おいで、あ！

キムラ 行くな！

トモミ すごいジャンプ。

キムラ 追うな。もうあれは猫じゃない。

トモミ え？

キムラ あれは俺たちが知っている猫じゃない。

トモミ でもあれは

キムラ かつては猫だった生き物だ。

トモミ
ほら、子猫はあの辺だ。そして親猫は自分に注意を引きつけるように、子猫とは反対方向に目立つように逃げた。
野生そのものだよ。でも、ちゃんと生きている。
ああして命の輪が途切れないように純粹に生きている。
純粹に生きている・・・風景・・・。

暗転開始（ゆっくりと）

SE 海鳴りそして地鳴りへ

トモミ
え？地鳴り？
キムラ
車に戻れ！！
トモミ
でも、猫が！
キムラ
ほっとけ！大きな揺れがくる！
トモミ
あ！子猫！
キムラ
こんなところで津波が来たら終わりだ！
トモミ
だったら、子猫は！
トモミ
猫ちゃん！こっちに来て！

暗転終了

照明 真っ赤な閃光

SE 鉄の扉がガチガチとぶつかる音

SE 扉が閉まる音。遮断を表現したい。

閃光の中に放り込まれた人々はストップモーションとなる
舞台中奥一段高くなったところにカンバスを持った男が登場。
彼はまた朝もやの中だ。

SE 緊張した不協和音

投影されるラッキードラゴン

ベン（声）
第5福竜丸の事件は1954年3月11日の小さなラジオ局
の小さなニュースで知った。
マリ（声）
大きな新聞は報道しなかったのですね。
ベン（声）
そうだったと思う。

だが僕は一つの情報として日本という小さな国の小さなマグロ漁船、第5福竜丸がビキニ諸島の近くでアメリカの行った水爆実験に巻き込まれたことを知った。ただのニュースとして。

An unassuming fishing boat Daigo Fukuryu Maru

(Lucky Dragon No 5) and its inexperienced crew got too close for comfort to a nuclear test conducted by the U.S near Bikini Island.

This was just small news.

3場 ラッキーアイランド

5体の人影

SE 地鳴りから海鳴り

緊張した1音が鳴らされる

地鳴り大きくなる

より大きく投影されるラッキードラゴンへ変化

溶明

人影に語りかけるベン

ベン
おはよう。

ベン
Good morning.

ベン
今日もいい天気だね。

ベン
It's a nice day, isn't it?

ベン
おまえはだれだ？

ベン
Who are you?

ベン
僕はベンだ。

ベン
I'm Ben.

ベン
僕はどこから来た？

ベン
Where am I from?

ベン
僕は……リトアニアで生まれた……と思う。

ベン
僕は……ニューヨークに住んでいた……と思う。

ベン
僕は……絵描きだった……と思う。

ベン
だから……僕は……絵を描いている……と思う。

ベン
そうだ、ここに散らばっている絵は僕の絵だ……と思う。

ベン
ではなぜここで絵を描いている？

ベン
そして、ニコとは？　こことは？　どこなんだ？

ベン
いつから？　そう、いつから僕はここにいるんだ？

ベン
そして……僕は……なぜここにいるんだあああ！

ベン
そして

ベン
そして……これはなんなんだ？

ベン
これは、これらは人なのか？

5体の人間が何かから逃げようとした姿のまま硬直している。

ベン

おはよう。

おはよう。

おはよう。

返事をしてくれ。

返事をしてくれないか……。

おはよう……じゃないのか？

いいや、それは問題じゃない。

ベン

地鳴りが共鳴する

ベン

そうだ、僕は荷造りをして島を目指したのだ。

島とはどこだ？

思い出した。思い出した。

僕は！今朝、あの島を目指したんだ！

僕は、グランドセントラルで列車を待っていた。

列車を待っていた。僕は港に行く途中だった。

そうだ、あの時大きな地震が起こった。

その先の記憶は……ない。

SE、ゴジラの咆哮

溶閨

ベン

ここはどこだああああ！！！！

緊張の一音

大きな波が岸壁に打ち付ける。

投影されるラッキードラゴン

マリ（声）

おはよう、ベン。

ベン（声）

おはよう、マリ。また太陽が昇ったのだね。

マリ（声）

それは変わらぬ営み。

ベン（声）

ところで君とは会ったことがあったのだろうか。

マリ（声）

私はあなたに会ったことがあるのよ。ベン、あなたの作品を通してあなたに会った。

ベン（声）

僕の作品を通して？

マリ（声）

そう、追憶の中で。

ベン（声）

追憶とは？

マリ（声）

忘れ去られた記憶の彼方に訪れるもの。

だから安心して。思いはつながるから。

だから、おやすみなさい。

絵を書き続けるベン

路上で息絶えた犬の絵だ。

緊張した1音が鳴らされる

(これらの音は強烈な耳鳴りをイメージしたもの)

溶明

5人の硬直が解けるが視界がはっきりしない。

マリ 銀！戻って！！・・・。

え？

キムラ トモミ、大丈夫か・・・？

っていうか・・・ここはどこだ・・・？ 地震は？

トモミ 子猫！ どこ！？

子猫？

トモミ きゃあ！ だれ？

にいちちゃん！ マモルにいちちゃん！

マモル よおし、余震は収まったな！

マリ 銀！銀！どこ？

エミリ ここ、どこ？ 暗いよ、怖いよ・・・？

マリ この風景・・・なに？ (徐々に視界がはっきりしてくるが)

マリ ああ！！どこ？？

マリ うん・・・。

エミリ あれ？ ゲートない！ よねえ、ないよねえ、ゲート！ あ、やばー逃げて！

マリ え？

エミリ いつのまにか警察がいる！！

キムラ 警察！？ ええ！

マモル 警察！？ ええ！

キムラ どこ？ どこ？ どこ？

マモル どこ？

マモル あの、すみません。

キムラ ?

マモル これはですね、

キムラ ?

マモル 深い訳がありましたね。

マモル ?

キムラ 決して不法侵入した訳ではなくってですね。

マモル ?

マモル あ、どうぞ。

キムラ
マモル

どうぞ。

あ、もともと家はこの辺りなんです。

ていうか、それにしても夜に入ったつもりがいつの間にか朝になってまして

マリ

マモル！

マモル

なんとかごまかさなきゃ。(マリに)

いやあ、さっさと出ますのでご勘弁を。

マモルが深々とお辞儀をした瞬間
防護服のお尻がさらに破れる

エミリ

ああああ！破け過ぎだよ！

マモル

うわああ！これは！！؟؟？

トモミ

この人どうしたんですかあ？

エミリ

あ、あ、あ、やば、あ、おまわりさん、助けてください！ いくらなんでも破け過ぎ！

マリ

塞いであげて！？

エミリ

え、何で？何で？あ、待って、待って、防ぎきれない！ふさぎたくない！

広がりすぎてる。

手で押さえようとするエミリ

エミリ

おまわりさん！ セロテープ！ あ、無理だな！

マリ

エミリ、線量どのくらい？

エミリ

手を離せない。これ、これ！

首から下がっている線量計をとるように促し

キムラ

ああ、あの！ 私、おまわりさんじゃなくなってますね。トモミ、ガムテ！

トモミ

そうだ、ガムテープ持ってないか！

マリ

ああ！この放射線量

キムラ

車？ あああ、俺の車がない！！

マリ

だから、この放射線量！

マモル

ああああ！ 翅箱がない！！

マリ

えええっ？

エミリ

ええ、だめ兄貴！！

マモル

いや、でも！

SE ゴジラの咆哮

エミリ
マモル
エミリ
トモミ
マモル
キムラ
エミリ
トモミ
キムラさん
は前の方
を！
ええ？ あ？
こう？
あ、あの！
そこはそん
なに心配し
なくても、さ
っき8F5Vで
したから
どこから心
配する数値
なのお？
マモル！ 動
かないで！
また裂けた！
マモルう！
初対面で呼
び捨てです
かあ？
初対面って？
股がああ！
？
ええ！？ 股
が！？
動くな！
裂ける！
あああ！反
応しないで
ほしいん
だけど！！
ナニがあ？
それにしても
こんな紙切
れみたい
なもので防
げるの！
ナニがあ？
放射線自体
は防げない
けど、お尻
から入って
くるほど
では。
トモミ！ 今
どのくらい？
ナニがあ？
だから、線
量！ 線量計
で測って！
ナニをお？
なに！？
防護服いら
ない。

防護服を脱ぎ、線量計を持ち

マモル

マリ！ 放射性物質にまみれるぞ！

キムラ マリちゃん！
マモル ええっ！？
マリ ほぼゼロ……。
キムラ え？
マリ 脱いでもいいと思う。
トモミ えええ、脱ぐの？
マモル 君が！？
トモミ やだ！
エミリ お姉ちゃん、どういうこと？

エミリ、手を離し

トモミ あ、ちよっと！
マリ エミリ、ここ線量低いの。
エミリ ほんとだ。0.03 μ Sv。
マリ ここどこ……そしてさっきのは何？
マモル ゴジラ？
エミリ あたしも脱ぐ。
キムラ マリ……ちゃん？
トモミ え？マリちゃん？
マリ え？
キムラ トモミ、線量、計って！
トモミ えっと、0.03 μ Svです。
キムラ 0.03 μ Sv？おお、自然界にもともと存在する数値レベルだ。
トモミ 脱いでいいぞ！
マモル お！？
エミリ ばか……。
トモミ ああ、すっきりした。
マリ 空気も清浄だって言うこと？ ということはここは？
キムラ あの。マリちゃん？
マリ あ、おまわりさん、先ほど兄が言っていたことなんです
キムラ マリちゃん、警察じゃないよ。俺だよ。
エミリ ええ？ 警察じゃないの？
マリ あの、
キムラ 俺だよ、俺。
マリ 俺だよとおっしゃられても……。
マモル 何だかこの人、呼び捨てなんだよ、俺のこと。
キムラ タイベックスーツ……。〔防護服ではだれかもわからない〕
エミリ え？

マリ だから防護服・・・。
キムラ ああ、今脱ぐよ！
マモル あ、俺も。

キムラ マモル脱ごうとしてこける
キムラです。

キムラもこける

マリ え？
キムラ キムラです。
マリ え？
キムラ 黄色いセーター？
キムラ キムラです。
マリ はあ・・・。
エミリ 裸足にスリッポン？
エミリ お姉ちゃん、見たところ確かにお姉ちゃんの好みのタイプ
ではない。
しかし！そういうとぼけ方はどうかと思う。

マリ ええ？
キムラ マリちゃん、いつ髪を切ったの？ 悪くないと思うけど。
マリ あの・・・切ってませんけど。
キムラ ええ！ またまた冗談ばかり。
マモル ああ、ええと、キムラさん、マリとは関わりがあった方なので
でしょうか？
マモル う、どういう冗談？
え、僕？
エミリ マリちゃん、マモルう、これはどういうリアクションを僕
に求めているのかな？

エミリ マモル ええ！？
トモミ あれ？ この方々が今回の取材先なの？ マリちゃん！！
キムラ 馴れ馴れしいぞ。
マモル いや、あなたの方が。
キムラ でもマリちゃん、どうしてこんなところに？
というより、ここがどこかわからないんだが。
マリ あ、あの？

トモミ お兄さんのマモルさんで、妹さんのエミリさんだ。
キムラ 大都会衛星テレビのトモミです。よろしくお願ひしますう。
語尾を伸ばすな。

マリちゃん、今回はレポーターが変なやつだけど、まあいつもの感じで。

マリ、だれ？

マモルう、なんなんだよ。

急に親しげだ。

キムラ エミリちゃん、そういえば拾ってきた猫は元気かい？

エミリ あたし？猫？拾った？

キムラ 名前なんてつけたんだっけ？

エミリ さ、さあ……。

キムラ なんだよ、君たちはキムラさんにどつきり大作戦な訳？

マリ え、ええ？どつきりなの？

キムラ またまたとぼけちゃって、猫の名前は「エリンギ」

エミリ 「エリンギ」ってきのこじゃん。

キムラ そう！その時僕もそう突っ込んだ！ ああ、久しぶり。

トモミ あたし今度のマリさんたちのレポートが実質的なデヴェューになるんです。

キムラ まあね、こいつじゃ頼りないかもしれないけれど、今回はマリちゃんちの酒をアメリカで作るっていうプロジェクト、しつかり特集させてもらうよ。

マリ 家の酒をアメリカで？

キムラ シアトルへの同行取材もOKが出た。

トモミ なぜかこいつも一緒だけだね。

エミリ よろしくお願いしまあす。

マリ ちよっとお姉ちゃん、

マモル あ、うん。

エミリ マモルもちよっと来て。どういうこと？

マモル ねえ、俺、酵母の箱持ってたよね。

エミリ え、ないの！？

マリ どこに置いてきたの？

マモル それがわからないんだよ。

エミリ それにさっきのゴジラも気になる……。

マリ うん……。

エミリ あたしに任せて

マリ なにするの？

エミリ ちよっと乗っかってみる。

マモル え、どういうこと？

エミリ キムラさーん。

キムラ なあに？

エミリ 真っつききなサマーセーター、着こなしが最高ですね。

キムラ だろう！

マモル まじで？

エミリ しいっ！

トモミ ですよねえ。

キムラ なにいつてるんだよ。

これは君たち兄弟が僕の誕生日に送ってくれたものだろ。何度、礼を言わせようっていうんだよ。まあ、気に入ったから着てきたんだけどね。

ああ、よかったですう。

ねえ、お姉ちゃんの趣味？

まさか。

エミリちゃんが選んでくれたんだよね。

ええ？

マリちゃんがそういつてたよ。

おねえちゃん！！

言ってない、言ってない！

あ、ごめん、内緒だった？

おねえちゃん！

落ち着いて。私たちはあの人のことは知らない。でしょ。

だよね。

だよ。

うん、頑張る。

キムラさん、ところでここはどこなんでしょう？

あ、そうだった。肝心なことを忘れるところだった。

ですよねえ。

そうだ、地震、地震があったよね。

あ！あった。そう、銀は？

そうだよ、銀も酵母の箱もさっきの地震のときに

地震、やっぱりあったんだ。

津波で何もなくなつた港で

そうだ、海を見ていた。

とたんに海鳴りが聞こえる 大きく

こんな青い海見たことない。

・・・南の島・・・みたいに青い・・・

え？

だれも汚していない海。

うん、きれい。

いや、この砂・・・、南の島のじゃない気がするが。

だが、この右手と左手に拡がるジャングルは？

SE ゴジラの咆哮

キムラ それにさっきも聞こえたこれは？
マモル ゴジラ。
キムラ いやいやいやいや、いくら君が特撮オタクだからって、ねえ。
エミリ マモルが特撮オタクだって・・・この人・・・知ってる・・・。

SE ゴジラの咆哮

マモル 確実に近づいている。
マリ マモル、なんなの？
マモル 実に興味深い！
マリ 何が？
エミリ やめてよ、あたし福山のファンなんだから。似てないし。
マモル この声、初期のゴジラの声だ。
エミリ はあ？
トモミ 1954年版の？
エミリ え？
マモル 大正解！
トモミ やっぱり？
マモル 素敵だ！
キムラ どういうことだい？マモル？
マモル どうして呼び捨て

SE ゴジラの咆哮

トモミ なんだか遠くなったような。
エミリ イヌでしょ。
マリ もしかして銀？ちよつとその辺見てくる。
マモル 待て！俺がいく。
マリ ちよつとマモル！

マモル駆け出す

マリ エミリ、行くよ！
トモミ だめですよ！あのゴジラは！
マリ あのゴジラって、私たちは銀を捜しに行くの！どいて！

トモミ　でも、あのゴジラは
マリ　あのゴジラだか、このゴジラだかわからないけど、そんなことはどうでもいいの。
トモミ　よくないんです。あのゴジラはきつと

怪鳥の声

マモルの悲鳴

マリ　マモル兄ちゃん！？
キムラ　マリちゃん！君たちを危険な目にあわせられない。
マリ　でも、おにいちゃんが！
エミリ　鳥？
キムラ　ここは俺が行く！
マリちゃんたちはここで待っていてくれ！
マモルは必ずこの手で連れ戻すから！

ゴジラ咆哮

トモミ　キムラさん！だめですよ！あのゴジラは！
エミリ　行っちゃった。だけど、うざ！
トモミ　ほんとに。あのゴジラはやばいのに・・・。
マリ　あのゴジラ？
トモミ　初期のゴジラは人類の敵なんです。
マリ　人類の敵？
トモミ　あ、知らなかったでしょ。
トモミ　ゴジラって悪い怪獣だったんです。ところが！
エミリ　いつのまにか、っていうか宇宙怪獣キングギドラとかヘドロ怪獣ヘドラとかと戦い始めた頃には人類の味方、少年たちのヒーローになっちゃったんです。
トモミ　あの！それってさ、映画の中の話しでしょ。
エミリ　ええ、まあ、そうですね。
トモミ　でしょ。

SE　イヌの遠吠え

マリ　イヌの遠吠え・・・？
エミリ　ほら、イヌじゃん。
トモミ　ええ、今のは犬だとは思っけれど。
マモル　おおい！

マリ マモル！
マモル なんだあれ・・・なんだあれ？
マリ どうしたの？ だいじょうぶ？
マモル ここどこなんだよ。
エミリ だからなにがあつたの？
マモル だから、ダチヨウ。
トモミ ダチヨウ？
マモル うわあ、なんすか？
トモミ 野生のダチヨウ！ いたの？
マモル あ、はい・・・、あ、あとこれ。
エミリ ヤシの実？
マモル あ、これはね、僕から子猫ちゃんへのプレゼントだよお。
天然ものみたいだよ。 珍しいよね。 大きいよね。
エミリ デカっ！ あたしには？
マリ 天然もののヤシの実って、それにダチヨウって何？
マモル ああ、ダチヨウはダチヨウダチヨウ。
トモミ それ！
マモル こっち見てたんですよ、しかもこのくらいの距離で、野生のダチヨウの群れが。
トモミ 野生のダチヨウが？ それも群れで？
マモル 好きですか？
トモミ え？
マモル ダチヨウ？
トモミ いえ、特には。
マリ ここって日本だよ。
マモル 天然のヤシの実も野生のダチヨウもいる訳無いでしょ！
うたがってるの？

SE イヌの吠え声

マリ ねえ、マモル、キムラさんは？
トモミから手渡されていたヤシの実をエミリに勢いよく戻す。
マモル それは、子猫ちゃんに
エミリ 自分で渡したら。

ヤシの実？をマモルの方へ放り投げる。

マモル ああ！

キャッチし損ねたヤシの実を追って再びジャングルへ
SE ゴジラや遠く

エミリ ちよつとなに？

トモミ え、もしかしたらゴジラみたいに突然変異で巨大化した猛獣の鳴き声？
突然変異って

マリ ええ、放射能の影響で、さっきのヤシの実みたいに
やめて。

エミリ イヌだよ、イヌ。

SE イヌの遠吠えとゴジラの咆哮

マモル なんだ？

トモミ ゴジラ？

マリ ねえ、キムラさんは？

キムラの悲鳴とイヌの咆哮と・・・ゴジラ
そして、キムラの悲鳴、断末魔

トモミ きゃあ！ キムラさん！

マモル キムラさんがどうしたの？

マリ マモルのこと追ってあっちに行っただけ。

マモル ええ？ 会わなかったけど。

トモミ きゃあ、キムラさん！

キムラ全身ぼろぼろだ

キムラ いやあ、まいったよ。どこまでいってもジャングルだよ。あ、これお土産
だ。これとるのが大変だね。このキノコ、食えるといいんだけど。

マモル 確か！

トモミ お土産って、怪我は？ 怪我はないですか？

マリ これも・・・突然変異・・・。

エミリ 何が起きてるんだろ・・・。
なんか犬みたいなお動物が吠えてきて、逃げてたらあっちこっちに引っかか
っちゃったっていうか・・・ねえ。

エミリ じゃあ、さっきのギャオーってやつは、犬？

マリ 銀？

キムラ

イヌっていうか、あ、銀じゃないよ。

マリ

いや、あんな凶暴なの見たことないな。しかもしつこいし。ドーベルマンみたいなの？

キムラ

いや、どっちかっていうと毛こんな感じで生えてて……。ラーメンみたいなの……。なんだっけな。

トモミ

ラーメン？

キムラ

ああ、名前がな。

マモル

あ、ラオウか！超怖いな。

キムラ

いや、そっちじゃなくなってる

トモミ

ケンシロウ？

エミリ

もうそれ犬じゃないし。

キムラ

あ！あいつだ！！

ALL

(それぞれ驚く)

……あれ？

下手にプードル

セクシーなプードルが腰をしならせている

マリ

プードル？

キムラ

そ、そう、それだ！ヌードルだ！

プードル1

「キャン！」

マモル

おお！なんだか萌えな感じだ。

キムラ

うわっ、こっちくん！やめろ、こっち見るな！

トモミ

かわいい！こっちおいで！

キムラ

こっちくん！

プードル1

「キャン！」

キムラ

やんのかこら！いいか、おまえ1匹だったら俺だって！

マリちゃん、見ててください！

男キムラ命に代えても君を守る！

キムラ

このやろう！

そばに落ちていた木っ端を投げつける

プードル1

ああーん、投げちゃいやん！

プードル走り去る

キムラ

はっはっはあ！逃げやがったぜ！

男キムラ本気になればこんなもんよ。

エミリ　こんなもんねえ。
マリ　プードルが・・・しゃべった。
マモル　うん。

キムラ　エミリちゃん、もう怖がらなくていいぞ。
トモミ　マリちゃん、君のためなら死ねる！　なんちゃって。
キムラさん、この取材が終わったらプロポーズするらしいですよ。

マモル　ええええっ！？　初対面の人が？　プロポーズ？
トモミ　初対面？

マモル　あのマリに？　プロポーズ？
トモミ　え、ええ。

キムラ　マリちゃん。
マリ　あの、ついてこないください。
マモル　そうか！　初対面だからこそできるのかもしれない。

マモルを殴るエミリ

マモル　痛てえ、なにすんだ！
エミリ　黙ってて。

キムラ　あ、マリちゃん、待って、今度やつが来たらね。
エミリ　毛をひんむいて丸焼きにしちゃうからね。
トモミ　あの人、ほんと初めて会った人なんです。
エミリ　なんの冗談ですか？
トモミ　・・・。

トモミ　いったいどういうこと？
エミリ　それはうちらも知りたい。

SE　ダチヨウの雄叫び

キムラ　ダチヨウか！？
トモミ　ええ、ダチヨウ！！

キムラ　ダチヨウだ！　ダチヨウなら俺だって！
トモミ　だいじょうぶダチヨウ！！

トモミ　キムラさん！！　それおもしろくないですから！！
マリ　あれ？　キムラさんは？

トモミ　だいじょうぶダチヨウって。
エミリ　キムラVSダチヨウ？

マモル　さてその子猫ちゃん、名前は？
トモミ　え？　トモミ・・・ですけど。

マモル トツモツミか。さすが子猫ちゃん、良い名だ。さっきのゴジラの声も19

54年当時のやつだと言いつつ切った君。素敵だ。

初めてかもしれない君のような素敵な子猫ちゃんとお会ったのは。

エミリ キモいの増えたよ。

マリ そうだね。

SE 上手からダチョウの雄叫び 近づく

マモル マイスイートキヤット、トモミちゃん、ダチョウは任せてください。では！

マリ マモルにいちちゃん！！

SE 下手から多数のイヌの吠え声

キムラの悲鳴

マリ 犬？

トモミ キムラさん！？

マモル ああ！ご無事でしたか？ダチョウですか？

キムラ いや、そんなんじゃない。

ベン ベン 絵を描くのを中断し

ベン 今度はダチョウか、まったく落ち着いて絵も描いてられない島だよ。

マモル ほらやっぱりダチョウでしょ。

マリ ほらじゃないよ。

ベン やあ、ここに来て初めて人間に出会った。

キムラ (息荒く)ぶ、ぶ、プードルめ！

マリちゃん、無事ですか！？

君からもらった真つききなセーターは守りきました！

キムラ、よりいっそうぼろぼろだ。

マリ あげてません！

キムラ そんな照れちゃって！

マモル また出たんですか！

ベン 野生化したプードルか。

マリ あいつらはうるさくてかなわん。おかしなところだ。

ベン 知ってるんですか。

マリ 野生化した犬、凶暴なダチョウ。

それに得体の知れない咆哮。

キムラ

あんただれだ？

ベン

僕はベンだ。君はだいぶやられたようだな。

ダチヨウにやられたのか？

キムラ

やられたんじゃない。勝手に転んだだけだ。

ベン

小さな歯形がついている。プードルか。

キムラ

いや、あの

ベン

あんなのにやられたのか。

キムラ

なんだと、あんたは平気だって言うのか。

ベン

ああ平気だ。何しろ僕には芸術がある。

キムラ

芸術だあ！？

ベン

一つ君にアドバイスをしてあげよう。

キムラ

はあ？

ベン

やっぱり！

キムラ

やっぱり？

ベン

靴下ははいた方が良いな。

キムラ

え？

ベン

靴下ははいた方が良いよ。

エミリ

芸術関係あるの？

マモル

うん、僕もはいたほうが良いと思う。

キムラ

マモルう、なんだよ、こないだ靴下はかない同盟を結成した

マモル

ばかりじゃないか。

マモル

僕が？

キムラ

そう、

マモル

うそですよ。はかなかったら臭くなるじゃないですか。

エミリ

マモル！

マリを見つめるベン

マリ

あの、ベンさん？

ベン

ああ、そのまま、そのまま。

マリ

わたし？

ベン

そう、海を見つめて。

マリ

ああそうだ。

キムラ

あ、はい。

ベン

おい、あんた！

キムラ

闘う顔だ。

トモミ

なんなんだよ、あんた。

ベン

キムラさん！

ベン

闘う相手はなんだ。

マリ 闘う相手？

ベン みんなもその辺りに座ると良い。

キムラ なんてあんたが仕切るんだよ。

マモル はい。みんな腰下ろしてみよう。

トモミ そうですね。

キムラ おい、おまえら。

エミリ 座ろ。

ベン 君たちはここにきたばかりか。

マリ ええ。

ベン ここがどこか知りたいだろう。

キムラ そうだよ、どこなんだよここは。

ベン 知らん。

キムラ そんな！

マリ これが、わたし・・・。

エミリ お姉ちゃんって

ベン お気に召さないかな。

マリ 私ってこんな・・・。

ベン 絵描きってというのは鏡に映らないものを描くのが仕事なんだ。君には描きたくなる強さがある。

SE ゴジラの咆哮 客席後方より

トモミ ゴジラ！

ベン ゴジラ？ なんなんだ、それは？

こんどこそあいつを描いてやる。

SE やや波と静寂

ベン やつは姿を決して見せない。

そばにいるのは確実だというのに。やつはゴジラというのか。

トモミ え、ええ、たぶん。

ベン しかしその名をどうして知った。

知らないんですか？ ゴジラ。映画になってるじゃないですか。

ベン 映画に？

マリ マモル、ベンさんは名前からしても日本の人じゃないのかも。

ベン 僕はリトアニアの生まれだ。そしてアメリカに移民した。

トモミ アメリカでもゴジラは1956年に「Godzilla, King of the

Monsters」というタイトルで上映されていますけど。

マモル ああ、そうそう、怪獣王ゴジラ！

ただし当時の時代背景にあうように反米とか反核兵器とかのメッセージはざっくりばつさりカットされてるけどね。

トモミ ただのモンスター映画になっちゃったのね。

マモル ゴジラが生まれた意味も無くなっちゃったわけだよ。

トモミ その後のゴジラなんてもうだめゴジラ。やっぱりそう思う。

トモミ 正義の味方になっちゃったくらいにして。

マモル ほんとほんと。

エミリ ストップ！

ベン 1956年・・・1956年だと・・・。

トモミ ええ、アメリカ版ゴジラは1956年に

ベン 馬鹿を言うな。今は1954年じゃないか。

トモミ それは日本版ゴジラの生まれた年です。

マリ 今は2011年。つい先日大きな地震と原子力発電所の事故が起きた2011年。

ベン 地震？ 原子力発電所の事故？ どういうことだ？ 君の言っている意味が分からない。

マリ 私だってどう考えていいかわからない。

マリちゃん、君は本当にこの真つききなセーターに覚えが無いのかい。

マリ ええ。

キムラ まいったな。俺とマリちゃんは出会っていない！

俺たちは何も始まっていない・・・ということか。おかしいと思ったんだ。なんだか疲れたな。

トモミ キムラさん、私たちは

キムラ ちよつと待て！整理しよう。うん整理しよう。

トモミ 情報を整理するんだ！キムラ！

トモミ キムラさん、

マリちゃん、マモルう、エミリちゃん、俺たち結構いい仲間なんだぜ。

トモミ、俺たちは西暦何年に生きていた？

東日本大震災から3年が経った2014年。

マリ 2014年って？東日本大震災って？

トモミ え？知らない？

東日本大震災っていわれるようになるまで何度か呼び名が変わったろう。

どういうことなんだ？

さあ。

キムラ

キムラ タバコを取り出し火をつけようとすが

ライターはガスが切れているようだ

キムラ あの、火を貸してくれませんか。
ベン 残念だが。
キムラ だれか火、持ってない？
・ ・ ・ そうだね、誰も吸わなかったね。
エミリ ねえ、絵描きさん、ここはどこだと思えます？
ベン 島だな。それしかわからない。
エミリ うちらに会うまで、どのくらいここにいるんですか？
ベン さあ、絵を、この絵とこの絵を描いたぐらいの時間だ。
マモル 50年ぐらいいたってわけじゃなさそうだね。
エミリ ていうことは私たち死んだ？ 死んじゃってる？
トモミ でここは天国？
マリ いやだ。死にたくないよ。
キムラ ちよっと冷静になってみようよ。
マリ そうだ、マリちゃんの言う通りだ。
キムラ 思い起こしてみろ、3・11以後の
マリ 俺たちの生活の変化を、もの見え方の変化を。
キムラ 何が起こっても驚けないさ。
マリ 3・11って・ ・ ・ 。
キムラ 月日が経てば事件や事故に呼び名がつく。
トモミ 東日本大震災と原発事故。
マリ そして福島はフクシマとカタカナで表記されるようになった。
トモミ カタカナのフクシマ・ ・ ・ 。
キムラ でも
エミリ 俺たちは死んではない。
キムラ 俺は今、タバコが吸いたくってしょうがない。
エミリ ほら、ちよっとした禁断症状だ。死んじやない証拠だ。
キムラ そんなのわかんないじゃない。
エミリ それにもう一つ。
エミリ エミリちゃん、お腹空いてるんだろ。さっきからお腹が
グーグー鳴ってるのが聞こえるよ。
マリ あ、やだ。ちよっとおとなしくしなさいよ。
エミリ ほんとだ。お腹空いたな。
トモミ あたしも、ああ鰻丼食べたい。
マモル ああ、鰻・ ・ ・ いいねえ。
マリ え、ベンさん？
キムラ あ、あんた何をした？
ベン あ、気づいちゃった。
マモル え？なに・ ・ ・ う・ ・ ・ 。

それぞれがベンに近づくと息が詰まる

マリ しました？

ベン 試しにどんなものかと。

キムラ とんだ絵描きさんだ。

マモル なんだこりやああああ！死ぬ！こりや死ぬる！

臭すぎてもだえ死にしそうだ。

ベン では、もう一発！

マモル ぎやあああ！

なぜかの和やかさが訪れる

マモル (息を整え) 俺たち・・・生きてるな。

トモミ じゃあ、あたしも！

マモル ああ！いいにおい！

トモミ あああ、じょうだんですよお。

マリ あいつとは縁を切ろうか。

エミリ うちもそう思ったとこ。

キムラ それにしても強烈な生きている実感だな。

ベン そりやよかった。

とところで何を食べたんです？ 絵描きさん。

ベン ベンです。

マリ えええっ？ ベン？べんってあのべんなにか？

キムラ マリちゃん！そのベンじゃなくって

エミリ もしかしてお似合いなの？

マリ え？

ベン と呼んでくださって結構。

マリ ああ、ごめんなさい。

キムラ 変わらないな。

ベン ああ、今朝は特別なものはたべてないが。黒パンとヴェーダレイソーセイ

ジとザワークリームをたつぷりのツエヴェリナイとコーヒードったかな。

黒パンとコーヒーしかわからなかったし。

そうか、ヴェーダレイは豚の血を使ったソーセイジだ。

ツエヴェリナイはジャガイモの・・・そうだな、ジャガイモ

の餅だ。

キムラ 芋、芋の餅、そりやあ強烈だ。

ベン 僕はリトアニア生まれでね。ツエヴェリナイは母さんの味だよ。

マリ
リトアニア？

キムラ
バルト3国の一つで長い歴史を持つ国だが侵略された歴史も
多い。

ベン
僕は、僕の家族はナチスドイツから逃れてアメリカに渡ったんだ。

SE ゴジラの咆哮

トモミ
1954年のゴジラ。

ベン
やっだ！なんだかずっと付け回されているような気がしてな
らないんだ。

マリ
あのゴジラ？

ベン
ゴジラ？

マモル
しいっ！何か聞こえる！

エミリ
これは……。

ME SI ゴジラのテーマ

ベン
ダララ、ダララ、ダララララ……。 (耳を澄まし音楽を探りながら)

トモミ
ダララ、ダララ、ダララララ……。

マモル
ダララ、ダララ、ダララララ……。 (音程とリズムがはつきりしてくる)

マリ
知ってる。ゴジラが海から現れるときに流れる音楽……。

キムラ
現れるのか！？

エミリ
ええ、まじで？

キムラ
防護服を着ろ！

マリ
え？

キムラ
ゴジラは放射能を吐くんだろ！

マリ
いや、でも……。

ベン
放射能を吐く？

マモル
無理ですよ。それに俺のはお尻破れているし！

キムラ
俺のを着ろ！俺は、少なくとも俺は、君たちより被曝してない！

マリ
キムラさん……。

キムラ
早く着ろ！あ、ベンさんの分は

ベン
心配ない、僕には芸術の力がある。

トモミ
じゃあ、せめてマスクを貸してあげて！

キムラ
俺が！？

ああああ、ほら！

ベンにマスクを放る

ゴジラの咆哮 遠ざかる

トモミ 行っちゃった。

キムラ 行っちゃってよかったんだよ。なんだよ。

マリ ねえ、ゴジラってどうして生まれたの？

マモル そりゃあ、アメリカの水爆実験で、ブラボーの放射能を浴びて伝説の大怪獣がよみがえったって、さっき話したじゃん。

ねえ、トモミちゃん。

トモミ ねえ。

マリ そうじゃなくてさ、何のために生まれてきたんだろうって。

キムラ そうだな、人間の愚かさをたしなめるためかな。

マリ そうかな、たしなめられただけじゃ人って変わらないと思うの。

ベン 何かが生まれるにはすべて理由がある・・・か。

ベン 僕は、水爆実験で日本の漁船が被曝したことを小さなニュースで知った。

マリ 1954年・・・？

キムラ 水爆実験？

マモル まさにその水爆実験によってゴジラは誕生した。

マリ それで、ベンさんは？

ベン 僕は、目撃しなければならぬと思った。

マリ 水爆実験を？

ベン いいや、実験そのものを見ても仕方が無いだろう。

マリ 僕が見たいのは未来だ。

マリ 未来？

ベン そう、未来のこの星の姿だ。そしてそれを描くんだ。

「第3次世界大戦ではどんな兵器が使われるかはわからない。

しかしその後は石つぶてをぶつけ合うことになるだろう。」

これは「インシュタインが雑誌のインタビューで語った言葉だ。

未来は科学など意味をなさない世界になるということだ。

2年前の水爆実験では一つの島が地図から消えた。

太平洋の真ん中の珊瑚礁に囲まれた小さな島エルグラブ。

海に沈んだエルグラブ。水爆によって蒸発してしまった島。

そう、エルグラブ。人が消し去ったアトランティスだ。

地図から消えた島・・・。

島だけじゃない。文明そのものを消し去る力だ。

僕は絵描きとしてしなければならぬことがあると思った。

僕は、残さなければならぬ人の思いを描くんだ。

ベン

エミリ

ベン

トモミ

ベン

マリ

ベン

マリ

ベン

マリ

マモル

キムラ

マリ

ベン

ベン

マリ

キムラ

マリ

トモミ

マモル

マリ

キムラ

トモミ

マリ きつとゴジラもそうして生まれてきた。

私、あなたを知っています。

ベン え？

マリ 絵描きのベン シヤーン。

キムラ え、ベン シヤーン？ってあの？

マリ 水爆実験で被曝したマグロ漁船、23名の漁船員たち。

ベン 第5福竜丸。

マリ あなたはそれを、福竜丸の福と竜を英語に直してラッキー

ドラゴンと呼んだ。

ベン 僕が？

マリ ええ、偶然か神様の導きかわからないけれど、あなたの作品

は福島県立美術館にも所蔵されているの。

ベン 日本の？

マリ そう、私たちの福島に。

フクシマってカタカナで表記されるようになるずっと前から。

ベン フクシマ？

マリ あなたの作品、ラッキードラゴンと題された連作は、世界の

核開発競争に対して闘ってきたの。

もうずっと前、美術館に遊びにいったときに見たの

ラッキードラゴン。

第5福竜丸の無線長久保山愛吉さんを描いた絵。

全身被曝した久保山さんを描いた絵。

あのときは感じなかった共感を今は感じる事ができる。

僕は描いていないぞ。

きつとこれから。

僕は描くのか？

マリ 連作ラッキードラゴン。

そのストーリーは出港を控えた福竜丸が停泊する焼津漁港から始まった。

そして23名は出航し、ビキニ諸島で被曝する。

ラッキードラゴンは、事実を描くことでその真実と痛烈な思いを語りかけ

てくる作品。時も場所も越えた作品。その一つは福島にある。

フクシマというところに・・・。

そんな原発の事故で、再びベンさんのラッキードラゴンも注目されるよう

になったの。

ベン そうか、それじゃ、僕の絵が多くの人に見てもらえたんだね。

キムラ ところがね、日本全国を廻ったあなたの展覧会は福島にだけ

は来なかった。

ベン え、なぜだ？

答えは簡単さ。

キムラ

ベン フクシマに持つていけば放射能まみれになっちまうって、アメリカの美術館はOKを出さなかったせいさ。ばかな！ 僕は、僕ならそんな決定を許さない。

マリ ベン、あなたは、その頃にはもう……。

ベン あ、ああ、僕は……そうか……。ごめんなさい。でもいいんだ。

マリ

トモミ だが……放射能と、核と闘おうとした僕の絵は放射能に負けるのか。いいえ、放射能に負けたのじゃないわ。

芸術の力も信じない作品をまるで宝飾品のように扱う人の心に負けたの。

ベンさんの作品、すごく高い値が付けられているわ。宝物よ。

ベン ふざけるな！ 宝物なんかじゃない！

キムラ ベン、信じられないかもしれないけど、世界はそんな

風に動いているんだ。

ベン 僕は、芸術の力を信じて描いてきたんだ。

真実をただ見つめて、作品に表現しようとしているんだ。

世界に満ちた怒りを、悲しみを、描きたいだけだ。

僕の絵に値がついたとしても変わる訳が無い。

だから人はものを作り、文明を築き、戦争をし、それでも愚直に生きようとしているのではないのか。

だからたとえその瞬間間違った道を歩んでいたとしても、

小さな共感が道をただすこともあるのじゃないのか。

それが芸術の力じゃないのか。

人が芸術に値段だけを付ける世界だと、未来は……。

未来はどうなっちまうんだ……。

キムラ ベン、甘いんだよ。経済ってやつは芸術を凌駕するんだ。

マリ いったいどんな世界になっているというの……。

キムラ いや、世界はちっとも変わらなかった。

僕たちの生活が変わっただけだった。

ゴジラの咆哮

ベン まただ。いったいなんなんだ。

私の胸に突き刺さるこの吠え声は？

トモミ ゴジラです。

ベン ああ、ゴジラな。

ゴジラの咆哮

ベン
そのゴジラはなぜ僕の胸に迫るのだ。
キムラ
あなたと、あなたがこれからなそうとすることと同じ目的を

持っているものだからだ。
ベン
同じ目的？

キムラ
あなたは絵画という手段で、ゴジラは怪獣映画という手段でただの情報を越えるものを人の心に訴えようとした。ああ、過去形にしてしまったけれど、ベン シャーン、あなたはこれからラッキードラゴンという連作に挑む。が、しかし、第五福竜丸のこともあなたの絵のことも人は忘れ去り、福島の事故が起こる。

芸術が人の意識を変えることなど無かったということですよ。
しかも芸術だってあやしいもんだ。最近ハリウッドが2作目のゴジラ映画を作った。

マモル
ええ！ほんとすか！でもまさかあのトカゲみたいなのじゃないでしょうね。
トモミ
こんどのは結構ちゃんとゴジラの形してるよ。

キムラ
ああ、形だけはな。でもな設定がまるで違う。1954年に水爆ブラボーを使用したのはゴジラを倒すためだったそうさ。

マリ
水爆実験のせいでゴジラが生まれたんじゃないやなかったの。
キムラ
マリちゃん、時として芸術すら権力(ちから)に寄り添うこともあるんだよ。

ゴジラの咆哮

キムラ
俺にはね、あのゴジラの鳴き声は自分の無力さを嘆いているように聞こえますよ。

ベン
君は何がいいたい。
キムラ
なんてことは無い。

人は当事者であるうとはしない。当事者ではいたくないんだ。
その心理が常に働き、ゴジラは正義の味方になり、あなたの絵はただの宝物となる。

あなたのいう芸術なんぞ結局は人の心に響きはしないってことですよ。

マリ
違います。私にはそうは思えない。
キムラ
マリちゃん、

私の記憶にラッキードラゴンはいます。
いますっていうか、ちゃんとここにありません。

ええ、確かに今回のようなことが無かったら思い出さなかったかもしれない。でもいます。

いいえ、いたんです。確実に。
マモル
ああ！僕の中にウルトラマンもゴジラもいるよ。

マリ

キムラさん、私は、今現在の私はあなたに会ったことはありません。けど、あなたの話し振りや私への接し方を思うと、私は決してあなたを悪しからず思っていた。ですよ？

トモミ

ええ、マリさんたちと一緒に闘ってきた人です。

マリ

そうですか、やっぱり。私もきつと好きだった。

でも、私、今のキムラさんだったら、好きになれない人だと思いません。

キムラ

マリちゃん……。

マリ

あの、誤解しないでください。

好みのタイプとかそういうのじゃなくて、

私がいいたいののは、私がまだ見ぬ未来でお話をしていた

キムラさんは諦めより希望を持つ気持ちの強かった人なんじゃないかって。もしかしたら私の知らない3年半で何かが変わったのじゃないかって。いったい3年半の中でなにがあったのですか。

緊張した1音が鳴らされる

溶閤

舞台上にはラッキードラゴン

キムラ

(声) 僕もあなたを知っている。

マリ

(声) 私はあなたを知らない。

マリ

(声) なぜ？

キムラ

(声) 僕はずっとあなたと一緒に過ごしたから。

マリ

(声) 私はあなたの記憶を持たない。

キムラ

(声) それでいいんだ。僕たちはこれから出会うのだから。

だけど、僕は何も変えることはできなかった。

ベンは絵を描いている

飛び立つ2羽の鳩の絵だ

バイオリンの、もしくはギターの、もしくは

ピアノの緊張した1音が鳴らされる

溶明

マリ

あの日、私たちの生活は変わった。

キムラ

世界が終わると思った。

キムラ ズボンのポケットから一冊のノートを取り出す

キムラ けれど、君たちの生活が変わっただけだった。

トモミ 高濃度

マモル 汚染水

キムラ ホット

エミリ スポット

トモミ 42, 195

マモル マイクロシーベルト

キムラ 本日の

トモミ 空間線量

キムラ きのこ たけのこ

エミリ 完全にベクレテルね！

マリ いったいそれはなに。

キムラ 君たちの生活に入り込んできた言葉だ。

マリ 私たちの生活に？

キムラ 君たちの生活の中だけにね。

3年半が経って世界はすっかり何もなかったかのように動いている。実際、何も解決してないというのにな。

そして福島に住んでいる人たちだって、考えることをしないように頑張っている。

だって、ずっと思い悩んでいるってのはしんどいからね。

マリちゃんはよく言ってたよ。

ゲートの中の人かそうでないか、線量が高いとこに住んでるかそうでないか、避難してる人かそうでない人か、そういう理由だけで、人が、人の思いが分断されちゃってるって。

絆って言葉がもてはやされたけど、ああ、君たちにとってはこれからだけど。聞くたびに嫌になる言葉が絆だって。

しかも今に至っては想いの分断ももっと細かくなってるから始末が悪い。

小さな利害が入り乱れている。警戒区域と呼ばれたところも、あ、強制的に避難させられたところも様々に再編されて、還れるところができたりしたけど、課題だらけだ。双葉はまだ立ち入り禁止のままだし

でもちよつと待って。3年半、3年半ですよね。

この科学も政治も成熟した日本ですよね。なんですか、その話し。

3年半経ったら事故処理も済んで僕らも双葉に戻って元通り酒作ったりしますよね。ですよね、ね、ね、ね。

キムラ マモル、俺が謝ることじゃないんだけど・・・、すまない、結局人も国も科学もみんな未熟だったんだ。

そんな、こんな思いして麴箱奪還しても無駄なことかい。

やっつらんねえよ！

マモル

キムラ

マモル

キムラ
マリちゃん。

マリ
取材ノート（マリちゃんたちの突撃）？

キムラ
俺が取材した君たちの三年がここにある。

おそろおそろノートを開くマリ

そしてゆっくりと閉じる

エミリ
お姉ちゃん？

キムラ
マリちゃん？

マリ
お返します。

キムラ
見てほしい。ちゃんと見てほしいんだ。

マリ
なぜ？

キムラ
なぜって、そこにはこれからの君たちのことが記録してある。

マモル
俺たちのこれからの三年。なんもん見せてどうしろっていうんだよ。

キムラ
わかんない、マモルのこともエミリちゃんのこともここに記

録してある。きっとこれからのことに役に立つ。

マリ
これからなんてあるのでしょうか。

私たちにとってはつい先日のこと。

このノートに書かれていたこと。3月11日のこと。

おそらく私はあなたに会って話しをしたということなんです

ね。私しか知りようの無いことがそこにあります。

きつとそれは絶望の記録。

あたしは見る。

エミリ、返して。

エミリ

「地震と津波の日のこと。」

夢を見ているのかと思った。

まるでこんにやくのように揺れるビル。

目の前で崩れる建物。勝手に動く車。

立ち上る砂埃。スパークする電線。

パニック映画のワンシーンか。冷静さを

欠いた頭では現実であることが受け止めきれない。

とにかく家に帰りたかった。

気を取り直してハンドルをしっかりと握る。

浪江町から双葉町へ抜ける旧道は壊滅していた。

警察官が海の方へ誘導するまま6号線に乗る。

しかし30分経っても1時間経っても車は一向に進まない。

車の窓を開けて微かに聞こえる防災無線に耳を傾けるが、何かを懸命に伝

えているようだということしかわからない。

そして海からの風が今までに経験したことがない鼻を突く匂いを運んでき

た。唯一喻えるなら髪の毛を焼いたような、爪を焼いたような。たまらず窓を閉める。

海の方に真っ黒な煙のようなものが立ち上がっている。しかしそれが津波であったことに気づくのは後のことでした。なにしろ、津波の色が黒いなんて想像したことが無かったものですから。余震は何度も私の心を不安にさせた。脳裏によぎるのは家族が潰れた家の中で呻いている姿ばかり。早く帰らなくちゃ。

双葉から歩いて逃げてくる人たちに街の入り口が封鎖されていることを聞いた。動かない車列からはなれて一か八か脇道にそれてみることにした。どうか通れますように。マンホールが飛び出していたり、アスファルトが隆起していたりはしたが、どうにか走れた。

途中、ものすごい形相の東電の人たちと何度もすれ違う。

原発から離れよう、離れようとしているように見える、なぜ？

どうにかたどり着いた我が家は、倒壊こそ免れていたけれど……。

マリ

エミリ、エミリ！よかった。

みんな無事？よかった！とうちゃんは？おかあちゃんは？

おばあちゃんは？あ、マモル！

エミリ

お姉ちゃん……。

緊張した1音が鳴らされる

マリ

これは……。

エミリ

あの日あたしたちが再会できたときの記憶。

マモル

それじゃあ。

キムラ

俺は君たちに会ったことがある。しかも何度も。

マリ

そしてこれが君たちの復興への突撃の始まり。

キムラ

復興への突撃？

君がいつも言っていた言葉だ。いろんな壁をぶち壊して行かないかや復興なんてうまくいかないって。どうやら壁ってというのは人の心のことだったり、政策の壁だったりね。

ともあれ、一年後、会津の蔵を借りて酒造りを再開するまでそれはもう突撃の連続になる。

マモル

てことは、俺たちは酵母を持ち帰るんだね。

キムラ

ああそうか。ということは、その後の記憶が僕の中にあるということは、

トモミ

私はVTRの中だけで、みなさんの戦いを見てきました。

マリ

あの、これだけ教えて。

トモミ

私たちへこたれてた？ 弱音はいてた？
いいえ。

マリ そうですか。ならOKです。

キムラ これはやっぱり見ないことにします。

マリ マリちゃん。

キムラ 私たち、これからも大変なんですよ。

マリ だったら、見ても見なくても同じ、突撃するだけ。

キムラ ですよ、キムラさん。

マリ あ、ああ。

キムラ よく考えると信じられないことだけど、どうやらこの人たちは

マリ 私たちの未来を知っている。そんなのあっていいはず無いけど、ベンさんの

キムラ のことも嘘に思えない。ベンさんは過去の時間を生きていた人。

マリ この人たち、キムラさんたちは私たちの三年後の時間を生きていた人。

ベン 聞かなくてもわかる。私たちの未来、そんなものは簡単。

キムラ 生きるしかない。

マリ そうだな。

キムラ たとえ忘れ去られても、思い出してくれることもある。

マリ トモミさんのようにキムラさんが作った映像を見て感じてくれた人もいる。

マモル そうでしょ、キムラさん。

トモミ トモミちゃん、僕はその映像の中でキムラさんのことをなんて呼んでい

マモル た？

トモミ え？

マモル キムラさんは僕のことをマモルう！て呼ぶじゃない。

トモミ 僕はなんて呼んでる？

マモル えっと、キムラあ！って。

トモミ へえ、そっか友達になるんだね。

マモル ああ・・・マモルう。

エミリ 友達できにくいマモルと友達になつてくれるのか。

キムラ 信じるよ。キムラあ！

マリ あ、あのさ、エミリちゃんはそうは呼ばないよ。

トモミ エミリったら。あの、私は？

マリ あ、キムラさんって。

キムラ ああ、安心した。

マリ え？

キムラ ちゃんと距離は保ってたなって。

マモル あああ、マリちゃん、どういう意味だよお。

キムラ キムラあ！ドンマイ！

マモル マモルう！

ベン できた！！

ベンの絵がまた一枚描き上がる

人が楽しく談笑している絵だ

マリ

素敵。

ベン

そうですか。

マリ

ええ。

ベン

僕は一人のアメリカ市民として、ヒロシマとナガサキのこと

は申し訳なく思っている。だけど、それが本心かどうかはわからない。

きつとアメリカ市民としてならノーだ。

マリ

え？

ベン

僕は絵を描きながら、そこに見えるものを見つめて共感していく事しかで

きない。第5福竜丸の事も、もつともこれから取材していくのだろうけれ

ど、ああ、ここから戻れなきや話にはならないけれど、一人の人間として

見つめていくつもりだ。アメリカ市民としてじゃなく一人の人間として、

いや一個の生命体として絵を描こうと思うんだ。

マリ

一個の生命体として・・・。

トモミ

どういうことですか。

キムラ

俺はなんだかわかる気がするな。

いやわかんないけど、アメリカ人は自分の国が戦場になったことは無い。

まあ、あつても南北戦争ぐらいなものだろう。

それにしても戦争で死んじまうのは兵士やら軍人であつて

一般市民ではない。反戦の旗を振っている連中だつて兵士として戦場へ赴

くアメリカ人の命を守りたいということではない。そんな国のあんたが

ヒロシマだのナガサキだのにアイムソーリー。ないな。

コミュニティの中からしかものを見ないとそういう事になるな。

あんたはコミュニティの外にでもいるつもりか。

ベン

僕はアメリカ人である前にリトアニア人であつて、それ以前にユダヤ人な

のだよ。

マリ

ベンさん・・・。

ははは、つまりなににしても身の置き場なんてないのさ。だからね、行き

着く先はこの命の置き場がどこかつてことなんだよ。

一つの生命体として・・・。(キムラに) キムラさん。

マリ

ああ。

トモミ

さあ、ここがどこがわんねげんちよも、すばらしい取材のチャンスだばい。

カメラもマイクもねえけど、しっかり感じて帰っぺ。

マリ

トモミさん、あなた？

トモミ

ありのままです♪いぐごにしたら♪

今まで頑張つて隠してきたんですけど、実は福島県人だったんです。

あ、驚きのあまり反応がサイレントだな。標準語巧かったからな。

キムラ

隠しきれてねえよ。なまつてたしな。

トモミ 嘘だあ。

マモル トモミちゃんこそ、なんで嘘を？

トモミ 上京するときに母ちゃんに言われたんだ。フクシマだって嫁の貰い手がなくなるって。

マリ どういうこと？

トモミ あ、あのね、最初はいろんなこと言われたりした人もいたけど、あ、つまりあの頃、福島にいたあたしたちは被曝してて、奇形児生んだりするんじゃないかって言う人もいたんだ。

エミリ ちょっと、それってうちらのこと？

マリ エミリ。

トモミ ああ、心配しねで、それも風評被害だってことになってるから、だけでも気にはなる。気にはなるんだげんちよ、気にしてらんね。

キムラ トモミ、だからこそだな。俺たちの使命と責任は大きいってことだな。必要な情報を伝えなきゃならない。自分の目でな。

トモミ もうごまかさない。ちゃんともう一回見る。ちゃんと取材すつから。福島県人として。ていうか私も、一個の生命体だけい。な、ベンさん。

犬の吠え声

小型犬だ

キムラ この声は！

マモル キムラあのライバル！

エミリ プードル？

キムラ そんなんじゃないええ！

「ワン」プードル1登場

キムラ きやがったな！

「ワン」プードル2仲間をともなつて登場

マモル かわいい・・・。

走り回りアクション

マリ キムラさん、無理しないで。

キムラ マリちゃん、見ててください。男キムラ！

じつと見ているプードル

先頭のプードルは何かを啜えている

近づいてきて啜っていたものを放す

プードル1 それ、投げる！

キムラ わあっ！

マモル キムラあ！

マリ シャベった！

プードル2 投げて！投げて！それ投げて！

エミリ こっちのもしやべった！

トモミ 突然変異？

プードル1 おい、その色気の無いメス、今なんていった？

トモミ ええ！あたし？

マモル おいおい、そんなふうになよ。いいにおいするんだぜ。彼女。

トモミ 嗅がないで！

プードル2 あ、こいつでしょ。

姉さんのこと嫌らしい目で見てた盛りのついたやつって。

プードル1 でもね、あたい嫌いじゃないよ。

マモル あ、お、ほんと？

キムラ ぼ、僕はああ？

プードル1 こいつはあたいの本能をくすぐってくれたやつ。

こういうの投げられると追いかけていられなくなって、興奮してくるの。あたいのあつつかいところを刺激してくれたやつ。

噛みたくなるぐらい好きよ。

ええ、僕が？

キムラ 姉さん、恋の季節ね。

プードル2 ばかね、あたいには心に決めたイヌがいるの。だからこいつは遊び。

プードル1 じゃあやつぱりあいつですか。

突然現れてあつつかいという間に群れを統一したあのイヌ。

プードル1 そうよ、交配するのはあのイヌって決めてるの。

プードル2 罪なメスって姉さんのことですね。

プードル1 ばかね。行くわよ！さあ、あんたたち、遊ぶよ！

木っ端をキムラに渡す

エミリ なにか置いてったよ。

キムラ これは・・・。

マモル キムラあ、それなに？

キムラ 俺があいつに投げつけた木っ端？

マモル しっぽ振ってる！

プードル達 さあ！さあ！さあ！早く！早く！

腰を振り誘うような仕草をするプードルたち

エミリ　もしかして、じゃれてた？
マモル　そっか、襲われてたんじゃなくって、遊んでるつもりだったんだ。

マリ　でも加減がわからなかったのね。

キムラ　あいつ・・・。

マリ　それ、投げてあげて！

キムラ　あ、ああ、えい！

ワン！と一声、走り去るプードル

キムラ　おおい、おまえらあ・

追いかけるキムラ

マリ　あ、キムラさん！

マモル　キムラあ！待ってえ！

複数のプードル吠える

キムラの悲鳴　ついでマモルの悲鳴

ベン　懲りない人たちだ。

マリ　ほんとに。でもなんでしゃべれるの？

ベン　理解できないことにも芸術は寛容だ。

エミリ　いやいやいや、これはちがうでしょ。

マリ　あ！あの子達に銀のことを聞けばよかった。

エミリ　お姉ちゃんまで、あのね

マリ　きつと何か知ってるかも。

ねえ！みんな！！

走り出そうとするマリ

するとよりぼろぼろのキムラ戻ってくる

キムラ　いやあ、まいった。まいった。じゃれすぎだよ。

キムラ高笑い

マリ
ねえ、あの子達は？
マモル
甘噛みも度が過ぎるくらいだね。

ぼろぼろのマモル

エミリ
けっこう本気で噛んでる気がするけど。
マリ
あの子達は？
キムラ
あとでまた来るって。
トモミ
大丈夫ですか。
キムラ
ははは、大丈夫に決まってるじゃないですか。
マモル
キムラあ。
キムラ
マモルう。

二人高笑い

その様子を絵に描くベン

キムラ
もし未来で出会っても俺たちはバディだ！
マモル
おう！
キムラ
それにしてもこんな木っ端で喜ぶなんてやっぱ犬は犬だね。
マモル
じゃれてかわいいねえ。
キムラ
おう！ キムラあ！
キムラ
おう！ マモルう！

木っ端でキャッチボールのようなことをする二人
が、キムラがキャッチし損ねる

マモル
キムラあ！
キムラ
キムラちゃんたら、エラーー！
エミリ
はい、はい、またあの子達来たら遊んであげなよ。

拾って渡そうとするエミリ

エミリ
ちよつとこれ！？ マリねえちゃん！！！！
マリ
どうした？
エミリ
これ見て。
マリ
え、まさか……。
エミリ
マモル！
マモル
……。そんな……。
マモル
キムラあ！

キムラ なんだいマモルう！
マモル ここがどこかわかった気がする。
キムラ え？

マモル この木っ端、よく見て
キムラ おう、あのコの木っ端か。
マモル よく見て。

キムラ お、かわいい歯形が、あいつめ！
マモル キムラあ！おこるよ！
キムラ なんだい？どうしたの？これがどうかしたの？
マモル ……

キムラ 字が書いてある・・・なんて書いてあるんだ？ええと・・・
マモル 白？ 白富士！？ 白富士！？ 白富士だつて！！
キムラ 私たちはどこにも行ってなかった。

マモル 白富士はうちの酒。そしてこれは家の酵母箱の一部。だいぶ風化してるけど、間違いない。
トモミ つまり・・・ここは未来の福島・・・
キムラ いやいやいや、結論を出すのは早い。

マモル これだつて、震災以前のものかもしれないじゃないか。
トモミ 確かに家の蔵は江戸時代から続いているさ。
マモル ここ見て。かなり薄くなっているけど
トモミ え、あ、これか・・・ええ！

頷くマモル

トモミ 酵母箱奪還記念2011年4月ありがとう K&T&B・Mより

with LOVE

K&T&BきつとK

え、俺？

T

私？

B

僕かな？

そしてとどめの with LOVE !

いかにも僕のセンスが活きている。

確かにね、マモルしか書かないよ。麴箱に with LOVE

僕たちはここから戻るってことだよ。

犬達の遠吠え

エミリ じゃ、あの犬達はもしかしたら取り残された犬達の末裔。
ベン ということはかつてこの辺りにはダチョウも生息していた？

マリ
ダチヨウ？
警戒区域と呼ばれたところにダチヨウも確かに取り残されて

いましたが、
野生化して……。

マモル
やつだ！？

マモルう、どう驚いていいやらわからないが、マモルう、
喜んでもらえないぞ。

マモル
え？

さつきからうっすら見えてきた対岸をしてみる。

あの廃墟の形見覚えないか。

マリ
あ……。

なに？

マリ
フクイチ……。

福島第1原発……。

キムラ
ここってさ、こういう地形だったか？

こんな南の島みたいな海だったか？

こんな気候だったか？

そもそもこんな小島じゃないだろ。

フクイチがあるところもだ。あれじゃどう見ても島だ。

ベン
ここは、君たちのいうところのフクシマだということか。

これじゃ……まるで猿の惑星の結末だよ。

マモル
猿の惑星……。

これをだれかが私たちに見せたかった。

トモミ
え？

これが人の未来。マモルの説が正しいとするなら、これを目撃した私たちは
それぞれの時代に戻る。

キムラ
そしてこんな結末に向かって生きていけというのか。

まあ、いま僕たちにはこれが見えている。

対岸の島を絵に描いている

キムラ
見えているものがすべてだろう。

人間の目っていうのはいい加減なものだよ。意外と大切なものを見落とす
ていたりするものさ。

マリ
大切なもの……。

フクシマか……それはどういう意味だい？

マリ
幸福の島。

福島と大昔の誰かが名付けたとしたら、その人はもしかすると願いを込め
たのかもしれないね。

未来の僕が福竜丸をラッキードラゴンと呼んだように。
きつと僕はただ英語に置き換えたりはしない。
幸あれと願ひ込めたはずだよ。

マリ
じゃあ、ベンにとってここは？

ベン
決まってるじゃないかラッキー☆アイランドさ。

ゴジラの咆哮

ME ゴジラのテーマ

ゴジラの咆哮

ベン
お、やつだ！

マリ
行ったり来たりしてる感じがするんだけど。

トモミ
きつと、ゴジラは東京湾を目指しているはずなんだよね。

マモル
そうだよ。ゴジラは東京に上陸しなきゃならないんだ。

でなきや、あの物語は始まらない。

でも、ここいらをうろろしてるってことは何かしら別の目的があるか、

それとも

迷子になった！

マモル
馬鹿な。

ベン
見えた！あれが！あれが！あれがゴジラか！

筆を走らせるベン

トモミ
ゴジラが上陸しようとしてる。

マモル
やばいよ！ フクイチの廃墟を壊されたら

キムラ
燃料棒とかが残されていたらとんでもないことになる！

ベン
そうだ、再び放射能が世界を覆う。

でも、この世界が遙か先の未来だって、だったらすべてが半減期を迎えてん
じゃないの。

キムラ
プルトニウムの半減期は2万4千年もあるんだ。

マモルの奩箱、そんなには経ってないように思うんだ。だから――

マモル
ということは

ベン
あれを守りきらなきや。

プードル再び登場

プードル1
遊んでくれてありがと。あたいらが生きて帰れたらこれで遊んで。

啜っていた小瓶をキムラに渡す

キムラ おい、どういことだよ！
プードル1 それさ！あんた達の匂いがするんだ！だからね！

大型犬の遠吠え
呼応する小型犬の遠吠え
と、怪鳥の声

プードル2 姐さん行こう！

プードル1 いやあ、今度の敵はでっかいなあ！

キムラ 待て！オリオン！

プードル1 止めないで！！ここでいかなきゃ女が廃るってもんよ！

トモミ オリオン？

キムラ オリオン・・・、おまえ・・・。ていうか、なんだこれ？

ダチヨウ くわあああああつ！

マモル お前！さっきの！

プードル1 ダチヨウさんたち、来てくれたのね！

ダチヨウ あたいらの喧嘩の続きはあいつをぶっ倒してから派手にやろうぜ！

プードル1 昨日の敵は今日の友よ。

ダチヨウ 明日はわかんねえけどな。

エミリ ひゆう〜！いいじゃん、あいつら！

ダチヨウ その弱そうな毛の無い猿、下手な手出しはするんじゃないやねえ。

大けがするぜ。くわっくわっくわっ！

マモル おまえ、なにもんだよ！

ダチヨウはダチヨウダチヨウ！

ゴジラ咆哮

プードル1 さて行きますか！

ダチヨウ くわっ！

プードル2 あとで遊んでね。

プードル1 じゃあな。

プードル2 またね。

キムラ ああ！おい！

！

プードルたち走り去る
追いかけるマリ

キムラ あ、マリちゃん！

マリ
マモル
トモミ
キムラ
聞いてくる！銀のこと、聞いてくる！
オリオーン！
オリオンって！？
マリちゃん追いかけなきゃ！トモミ！ちょっとこれ持ってて！

小瓶をトモミに押し付け

トモミ
エミリ
マモル
キムラ
マモル
トモミ
マリ
マモル
エミリ
マリ
マモル
エミリ
マリ
キムラ
あ、中になんかある。
ねえ、オリオンって。
俺たちが名前を付けてやったんだ。
あいつはプードル軍団のリーダー、オリオン。
オリオン座からやってきたヒロインさ。
そう、そういう設定にした。
はあ？
エミリ！マモル！
マリ！
銀が！銀が！この世界にいる！
ええ、銀って、うちの銀！？
あのこの好きなイヌってきつと銀！
突然現れて群れをまとめたイヌって両手でお手をするんだって！
両手でお手、そりゃあ銀だ！
うん。
そしてあのこは言った。
たとえどんなに強大な敵だろうと未来を守るために闘うと。
オリオン！

大型犬の遠吠え

マリ
トモミ
エミリ
マリ
トモミ
マリ
エミリ
トモミ
マモル
マリ
見て！大型犬の集団が次々と上陸していく。
あ！楽譜だ？
見て！先頭の犬！
虎毛の秋田犬よ。
秋田犬？
そうだよ、秋田だよ。あの子は銀よ。
じゃあ、あの犬たちは。
あ、あの、これ
まるで奥羽連合だ。
銀は奥羽連合を作ったんだよ。
子犬の頃からずっと「銀河流れ星」を読聞かせてあげてたもの。

エミリ
トモミ
マリ
トモミ
ベン
マリ
だからきつとあれは銀の奥羽連合。
奥羽連合って？イヌに漫画の読み聞かせって？
銀！ 気をつけて！ ゴジラは赤カブトより手強いわよ！
説明なしかい！
犬がゴジラにかなうわけないわ。
日本の犬たちを甘く見ないで。

ゴジラの咆哮

マモル
トモミ
キムラ
マリ
エミリ
トモミ
マリ
マモル
トモミ
キムラ
エミリ
ゴジラのしつぽが
しなる鞭のように
犬たちに向かう
銀、高く高く飛びあがる
銀、ゴジラの膝、腕、肩とジャンプの中継！
ゴジラ放射能を含んだ熱線を吐こうと口を大きく開く
銀、そこだ！必殺のジョークラッシュ！
ゴジラの下あごの先端に銀の体当たり炸裂！
たまらず、ゴジラの口は閉じられ
ゴジラの体内に熱線逆流！
ゴジラもんどりうって転倒！

ベンの絵が描き上がる

ゴジラの下あごに突撃する犬の絵だ

銀の雄叫び

犬たちがそれに呼応する

ゴジラの咆哮再び

トモミ
マリ
マモル
マリ
エミリ
マモル
トモミ
エミリ
マモル
マリ
ああ、ゴジラが立ち上がる
銀、再び飛んだ！
跳躍に回転が加わった！
一子相伝必殺の抜刀牙！
ゴジラ、抜刀牙を紙一重でかわす！
抜刀牙を繰り出した銀の体力は著しく消耗！
銀、立てない！
ゴジラのしつぽが群れに振り下ろされる。
群れのフォーメーション崩れた！
奥羽連合が蹴散らされていく！
銀、立って、立つのよ！

大型犬の遠吠え

ベン 見ろ、あいつらは負けていない。そうだ！行け！

マリ そう、負けてないよ。

だって戦いの中でセリ声一つ上げてないもの。

マモル 闘う犬だ！そうだよ、あいつらは知ってるんだ。

吠えるやつは弱いんだって。

マリ 無駄に吠えてるゴジラは弱い！って思ってる！

でも逃げて！

ベン よし！

上着を脱ぎ捨てるベン

エミリ 無理だよ！ どうやって闘う気？

ベン 僕には芸術がある。

キムラ どうする気だよ！

ベン シヤドーボクシングを始める

キムラ 芸術関係ねえだろ。

トモミ あのゴジラ、やる気万々よ。ちっとも正義の味方じゃない。

マリ プードルが！ 海を渡ってる。

キムラ あいつら！ あいつらならゴジラをやっつけられるかもだ！

マリ あの子たち。だめ！ 無理よ！

キムラ オリオン！

マモル オリオン！

キムラ マモル ベン オリオン！オリオン！オリオン！

トモミ プードル軍団上陸！

キムラ オリオンたち走る！

マモル 縦横無尽に走り回る！

マリ 走る！ 走る！ 走る！

トモミ ゴジラ、プードルの動きについていけない。

マリ 銀、立ち上がった！

エミリ 群れのフォーメーション再び整った！

キムラ オリオン走る！

マモル プードル軍団を追うゴジラ！

トモミ ゴジラを引きつけるオリオン！

マモル 迫る！ゴジラ！

キムラ 待ってるオリオン、俺も行く！

ベン
キムラ！待て！
マリ
ダチヨウ軍団疾走！巻上る砂塵！銀達の姿を隠した！

ダチヨウの雄叫び

キムラ
ダチヨウの上にダチヨウが乗ってその上にダチヨウが乗った！
出た！必殺ダチヨウはダチヨウダチヨウ！
エミリ
どんどん高くなるダチヨウタワー！その高さスカイツリーの如くなり！
キムラ
ダチヨウタワーを駆け上る銀！
マリ
頂上のダチヨウが叫ぶ「俺の翼を越えて跳べ！」
トモミ
銀！高く高くジャンプ！
ララララ、ララララ、ラララララーララ♪

これ！見てください！さつきオリオンが置いていった
ボトルの中に
楽譜？

エミリ
ララララ、ララララ、ラララララーララ♪
トモミ
ララララ、ララララ、ラララララーララ♪
マリ
ララララ、ララララ、ラララララーララ♪
トモミ
力がわいてきます！
マリ
ララララ、ララララ、ラララララーララ♪
エミリ
ララララ、ララララ、ラララララーララ♪
ベン
ラあ〜♪ララララ、ラ、ラララあラ、ラララ♪

ベン熱唱

次第に歌は広がる

ベンは歌いながら絵を描いている
生きる喜びを歌う絵が描き上がる

マモル
出るか！
マリ エミリ
絶天狼抜刀牙！！
トモミ
見事な跳躍！鋭い回転！銀の牙がゴジラの固い皮膚を裂く！
マリ
見事だ！銀！
トモミ
が！しかし！が！しかし！ゴジラ倒れず！！
キムラ
なんだと！策は？策はないのか？オリオン！
マモル
ダチヨウ〜！
マリ
ララララ、ララララ、ラララララーララ♪
エミリ
トモミ マモル
ララララ、ララララ、ラララララーララ♪
ベン
ラあ〜♪ララララ、ラ、ラララあラ、ラララ♪

キムラ オリオーン！
マモル ダチヨウ！
マリ 銀！
ベン できた！！！
トモミ それは？

高々と掲げたボードには「東京はあっち▶」

エミリ まさかそんなので
マリ 見て！ゴジラがはっとなつて頷いた！
トモミ・マモル ゴジラ気づいた！自分にかせられた使命に気づいた！
ベン そうだ！お前は東京に向かうんだ。そして伝えるんだ。
調子に乗った人間の愚かさを伝えるんだ！
キムラ あああ、ゴジラが海に戻っていく。

ゴジラの咆哮 遠のく
犬達の勝どき

マリ やった！やった！やった！
マモル 東京はあっちだあ！

犬達の遠吠え

マリ おおい！みんな！頑張ったね〜！

犬達の遠吠え

エミリ みんな気をつけて帰っておいでえ！
キムラ マモルう！
マモル キムラあ！
キムラ よおし、オリオンたちと遊ぶぞ！
マモル おう！
トモミ はい、これで遊んであげて。

ボトルを渡す

エミリ ちよつと、トモミい！
トモミ え？なに？
エミリ トモミい、もしかしてこれ。

トモミ　え、なんか書いてある。
エミリ　そこ、大きな声で読んでみて。
トモミ　「未来で出会うみんなに届け！トモミ&・・・えええ！
マモル　どうしたの？

マモルが楽譜を奪い

トモミ　やめて！読まないで！
マモル　えへえへへへ！やったあ！
トモミ　いやだあ！
エミリ　うちが読んであげる！
トモミ　「未来で出会うみんなに届け！トモミ&マモル♡」
キムラ　まだ何も起こってませんから、ああ近いですう。
マモル　ベン！これも絵に描いてやって！
エミリ　あれ・・・。
マリ　ベン？ベン？いない・・・あ、これ。

ベンの姿が絵の中に

エミリ　ベンは・・・戻ったんだ・・・。
キムラ　マリちゃん、いつか一緒に美術館に行かないか。
マモル　キムラあ！
キムラ　どうかな？
エミリ　お姉ちゃん、どうすんの？
マリ　未来で、未来で改めて誘ってください。
キムラ　私、忘れっぽいから。
マモル　あ、はい！
キムラ　キムラあ！
エミリ　なんだよう！
マリ　ことわったほうがいいかも。
　　そうだね。

犬たちの声

キムラ　おお！オゾンたちだ！
マモル　おおい！こつちおいでえ！
マリ　銀！銀！頑張ったね！銀！みんなと一緒にうちに帰ろう！

銀の遠吠え

マリ 銀？どこ行くの！？こっち！

ゴジラの咆哮再び

マモル ああ！フクイチの背後にゴジラ！
キムラ ああ！まずいぞ！えっと、たしか、あっちから651234だったよな。
マモル あのあたりは、4号機があったところだ！

ゴジラの咆哮そして紙を丸める音

エミリ 踏みつぶした！
キムラ ええっと、ええと、4号機にはプルトニウムがあったはずだよな。
マモル そ、そ、そうかも。
マリ だめ！銀！そっちにいつちやだめ！

銀の遠吠え

エミリ ゴジラ、海に帰っていったんじゃないの？
トモミ あれはさっきのゴジラじゃない！
マリ あ！ベンさん！ベンさんがゴジラの足下に！
マモル 東京はあっちゃって叫んでる！

プチプチをつぶす音（1つ）

マリ え……。
キムラ ベン……。
マモル ああ！ダチヨウタワーがゴジラの行く手にできあがった。
トモミ ダチヨウはダチヨウダチヨウ。

プチプチをつぶす音（連続で）

マモル ダチヨウ……。
キムラ オリオンよせ！帰ってこい。
エミリ フラフラしてる。うまく走れてない。

ゴジラの咆吼
プチプチをつぶす音（2つ）

マモル 防護服用意しとけばよかった。
エミリ お兄ちゃん・・・。

銀の遠吠え

マリ もういいよ、銀、もういいから、もう飛ばないで・・・。
ララララ、ララララ、ララララララララ・・・

静かに歌うマリ

全員がそれにもない歌い出す。
それはそれは静かに

トモミ 銀、飛んだ！が、跳躍に回転が伴わない。
銀、空中で失速。

歌が止む

プチプチをつぶす音（1つ）

再び歌い出すマリ

ひとときわ大きいゴジラの咆吼

エミリ もう一匹現れた！
キムラ 何頭いやがるんだ。マリちゃん、ここから離れよう。
マリ どこに？キムラさん。

ゴジラの咆吼と地鳴り

トモミ 海から次々とゴジラが出てくるよ。

キムラ ゴジラに囲まれた。

マリ ラッキーアイランドが見せてくれてるこの風景。

暗転が始まる

マモル マリ、ここにいたら危ないぞ！
キムラ どうやらどこにも逃げ場なんかなさそうだぜ、バディ。
マリ ほんと、なにしてくれてんのよ。ゴジラ！
マモル いい加減にきなさいよ！なんでそんなに生まれてるのよ！
マリ うわっ！ゴジラの足の裏、でか！
キムラ こっちだったただじゃ転ばないんだからね。
マリちゃん。

暗転

『ラッキー☆アイランド』の歌が聞こえてくる

♪何かが生まれるにはすべて理由がある
何かが生まれるにはすべて理由がある

明転

ゴジラはどうして生まれたの
人間の愚かさをたしなめるために
ラッキードラゴンはどうして生まれたの
未来を目撃するために

福島がカタカナのフクシマになる前に
福島がベクレル前に
ゴジラはずっと吠えていた

※ガガガオーン！ガガガオーン！ガガガオーン！
ガガガオーン！ガオーン！ガオーン！※

福島がカタカナのフクシマになる前に
福島がエルゲラブになる前に
ドラゴンはずっと吠えていた

※繰り返し

高濃度「ことば」 汚染水「ことば」 42, 195「ことば」 マイク
ロシーベルト「ことば」 空間線量「ことば」 きのこたけのこ「ことば」
ベクレル「ことば」

こんな言葉聞いたことなかった
こんな言葉言ったことなかった
こんな言葉必要なかった

福島がカタカナのフクシマになった今
フクシマがこんな言葉を持った今
フクシマがこれから吠えて行く

※繰り返し

ガガガオーン！ガガガオーン！ガガガオーン！
ガガガオーン！ガオン！ガオン！ガオン！ガオン！
ガガガオーン！ガオン！ガオン！

(詞・青木沙織 曲・ほんだまこと)

著作権管理者・佐藤茂紀

大きく一歩踏み出すラッキードラゴンに生きる者達

暗転

明転すると彼らは既に舞台にはいない
彼らはどこに向かって行ったのだろう
劇場には静かに喜びの歌が流れている

ララララ、ララララ、ララララララララララ♪
ララララ、ララララ、ララララララララララ♪
ラあ〜♪ララララ、ラ、ラララあラ、ラララ♪

ラッキードラゴンが浮かび上がる

了